

ベトナム社会主義共和国  
農水産食品の安全性確保のための検査強化  
プロジェクト  
詳細計画策定調査報告書

平成 23 年 12 月  
(2011 年)

独立行政法人国際協力機構  
人間開発部

人間
J R
11-101



ベトナム社会主義共和国  
農水産食品の安全性確保のための検査強化  
プロジェクト  
詳細計画策定調査報告書

平成 23 年 12 月  
(2011 年)

独立行政法人国際協力機構  
人間開発部



## 序 文

ベトナム社会主義共和国（以下、「ベトナム国」と記す）の経済はこの 10 年間でめざましい発展を遂げ、食料供給量も増加していますが、食品の安全・衛生面に関しては政策制度の未整備や管理者の能力不足等の問題から、適切な管理がなされているとは言い難い状況にあります。2009 年度のわが国の輸入食品に関する違反事例をみると、アジアでは中国に次ぎ、ベトナムからの輸出食品に関するものであったなど、ベトナムの輸出食品に対する信頼性が低下するリスクも抱えています。このため、ベトナム政府は、安全な食品の供給を緊急かつ重要な課題の 1 つと位置づけています。

また、ベトナムは 2007 年に WTO の加盟国となり、物資や人の国境を越えた自由な往来がさらに活発になりつつある状況下で、国際標準に沿った安全な食品を人々に供給することが急務となっており、ベトナム政府は施設や法制度の整備を通じてこれらの状況に適応した社会・制度を構築していく必要性に直面している状況です。ベトナム政府は農水産食品の安全性を継続的に検査する体制が構築、強化されることをめざし、技術協力の実施を要請してきました。

同要請を受け、JICA は 2011 年 7 月に詳細計画策定調査団を派遣し、実施可能な協力内容、活動計画について、関係者と協議を行いました。これらの調査結果を踏まえ、同国政府と同国 JICA 事務所の間で実施協議が行われ、2011 年 12 月 1 日から 2014 年 11 月 30 日の予定で、農水産食品の安全確保のための検査強化プロジェクトを実施することで合意に至り、討議議事録（R/D）の署名交換を行いました。

本報告書は、上記詳細計画策定調査及び実施協議の内容をとりまとめたものです。

ここに、これらの調査においてご協力を賜りました関係者各位に対し深い謝意を表するとともに、今後のプロジェクト実施・運営に際し、一層のご協力をお願い申し上げます。

平成 23 年 12 月

独立行政法人国際協力機構

人間開発部長 萱島 信子



# 目 次

序 文  
目 次  
地 図  
写 真  
略語表  
事業事前評価表

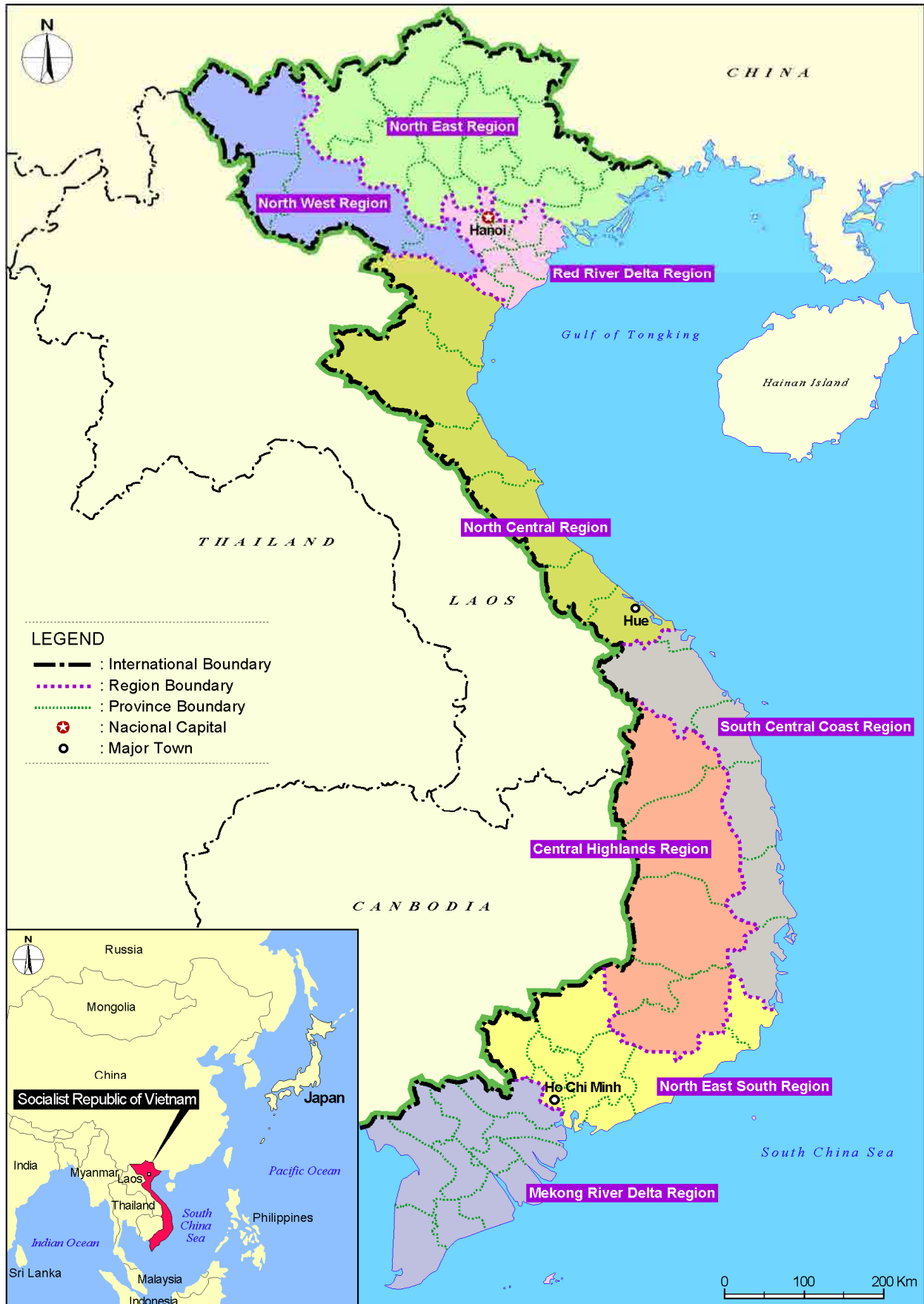
第1章 詳細計画策定調査の概要	1
1-1 調査団派遣の背景と目的	1
1-2 調査団の構成	2
1-3 調査日程	2
1-4 主要面談者	3
第2章 詳細計画策定調査結果	4
2-1 ベトナムにおける食品安全検査体制の事情	4
2-2 調査時における各機関との協議内容・調査結果概要	7
2-2-1 ICD（国際協力局、農業農村開発省）	7
2-2-2 DAH（動物衛生局、農業農村開発省）	7
2-2-3 PPD（植物防疫局、農業農村開発省）	7
2-2-4 NAFIQAD 本部（農林水産品質管理局、農業農村開発省）	8
2-2-5 NAFIQAD 支所4（ホーチミン）並びに支所6（カントー）	9
2-3 援助機関の協力状況	9
2-3-1 カナダ国際開発庁（Canadian International Development Agency : CIDA） による安全作物プログラム	9
2-3-2 アジア開発銀行（Asian Development Bank : ADB） による食品安全プログラム2案件	9
2-4 団長所感	11
2-5 団員報告	11
2-5-1 食品安全検査体制の観点から	11
2-5-2 SPS 政策アドバイザーの観点から	13
2-5-3 農業農村開発アドバイザーの観点から	15
第3章 プロジェクトデザイン	21
3-1 プロジェクト目標	21
3-2 上位目標	21
3-3 成果（アウトプット）と活動	21
3-4 投入（インプット）	22
3-5 外部要因（満たされるべき外部条件）	22

第4章 事前評価	24
4-1 妥当性	24
4-2 有効性	25
4-3 効率性	26
4-4 インパクト	27
4-5 自立発展性	28

付属資料

1. 詳細計画策定調査団議事録 (M/M)	33
2. プロジェクト実施に係る R/D 及び M/M (添付資料含む)	57





**Eight socio-economic regions in Vietnam**



農業農村開発省内関係機関訪問<国際協力局、DAH、PPD>



SPS タスクフォースメンバー



SPS 事務局職員（国際協力局、MARD）



SPS オフィス看板



DAH（動物衛生局）



DAH 検査試験室（地方省職員への OJT 中）



PPD(植物防疫局)

## NAFIQAD との協議



NAFIQAD 局長 (Dr.Tiep 氏)



協議風景

## NAFIQAD Branch4 (ホーチミン市)



NAFIQAD4 からの説明



モニタリング計画におけるサンプル方法



微生物課にある PCR 機材



同課にある CIDA からの供与機材



NAFIQAD Branch6（カントー市）



NAFIQAD 6 所長と牛尾団長の挨拶



サンプル試験検査（魚肉）



化学課薬品類



微生物課検査風景

MARD 副大臣表敬



MARD 副大臣（Mr.Phunog）表敬



MARD 副大臣及びベトナム側関係者並びに調査団を囲んで記念撮影



## 略 語 表

略 語	英 文	和 文
AAS	Atomic Absorption Spectrometry	原子吸光分光光度計
CCD	Charge Coupled Device Image Sensor	CCD イメージセンサ（半導体素子）
C/P	Counterpart Personnel	カウンターパート
DAH	Department of Animal Health	動物衛生局
GC/FPD	Gas Chromatograph- Detector	炎光光度検出器
GC/ECD	Gas Chromatograph-ECD	ガスクロマトグラフ-ECD 検出器
GC/MS	Gas Chromatograph-Mass Spectrometry	ガスクロマトグラフ質量分析装置
GLP	Good Laboratory Practice	試験所精度管理
GMP	Good Manufacturing Practice	製造管理及び品質管理の基準（医薬品）
GoV	Government of Vietnam	ベトナム政府
HACCP	Hazard Analysis Critical Control Point	危害分析重要管理点（ハサップ）
HCMC	Ho Chi Minh City	ホーチミン市
HPLC	High Performance Liquid Chromatography	高速液体クロマトグラフィー
ICD	International Cooperation Department	国際協力局
ICP/MS	Inductively Coupled Plasma Mass Spectrometry	誘導結合プラズマ質量分析装置
JICA	Japan International Cooperation Agency	国際協力機構
LC/MSMS	High Performance Liquid Chromatograph-Tandem Mass Spectrometry	液体クロマトグラフタンデム型質量分析装置
MARD	Ministry of Agriculture and Rural Development	農業農村開発省
MOH	Ministry of Health	保健省
MOIT	Ministry of Industry and Trade	産業貿易（商工業）省
MONRE	Ministry of Natural Resource and Environment	天然資源環境省
MOST	Ministry of Science and Technology	科学技術省
MPI	Ministry of Planning and Investment	計画投資省
NAFIQAD	National Agro-Forestry Fishery Quality Assurance Department	農林水産品質管理局
NPCC	Northern Pesticide Control Center	植物防疫局北部農薬管理試験センター（ハノイ）

略 語	英 文	和 文
PCR	Polymerase Chain Reaction-method	ポリメラーゼ連鎖反応法
PDM	Project Design Matrix	プロジェクト・デザイン・マトリックス
PO	Plan of Operations	実施計画
PPD	Plant Protection Department	植物防疫局
SOP	Standard Operational Procedure	試験検査に係る標準作業手順書
SPS	Sanitary Phytosanitary	衛生植物検疫措置
WTO	World Trade Organization	世界貿易機関



# 事業事前評価表

## 1. 案件名

国名：ベトナム社会主義共和国

案件名：和名 農水産食品の安全性確保のための検査強化プロジェクト

英名 Project for Strengthening Capacity and Inspection System for Ensuring Safety of Agro-Fishery Foods

## 2. 事業の背景と必要性

### (1) 当該国における食品安全セクターの現状と課題

ベトナム社会主義共和国（以下、「ベトナム」と記す）の経済はこの10年間でめざましい発展を遂げ、食料供給量も増加しているが、食品の安全・衛生面に関しては政策制度の未整備や管理者の能力不足等の問題から、適切な管理がなされているとは言い難い状況にある。管理能力の不足は感染症や食中毒の原因となっており、特に子どもや妊婦、老人といった弱者が健康被害を受ける危険性が高い。食品輸出はベトナムの重要産業の1つであるが、平成21年（2009）度のわが国の輸入食品にかかる違反事例をみると、アジアでは中国に次ぎ、ベトナムからの輸出食品に関するものが多かったなど、ベトナムの輸出食品に対する信頼性が低下するリスクも抱えている。このため、ベトナム政府は、安全な食品の供給を緊急かつ重要な課題の1つと位置づけている。

さらに、ベトナムは2007年にWTOの加盟国となり、物資や人の国境を越えた自由な往来がさらに活発になりつつある状況下で、国際標準に沿った安全な食品を人々に供給することが急務となっている。ベトナム政府は施設や法制度の整備を通じてこれらの状況に適応した社会・制度を構築していく必要性に直面しており、その一環として、WTO/SPS協定〔衛生植物検疫措置協定：Sanitary Phytosanitary (SPS Measures)<sup>1</sup>〕で確保すべきとされる衛生保護基準を満たすため、安全な食品を人々に供給するうえで必要となる食品等の試験や研修、及びリスクアセスメントを行う機関としてSPSセンターを設立することを掲げている。さらにベトナム政府は、効果的かつ持続的な食品衛生管理体制を構築するうえで、適切な検査・モニタリング体制の確立が極めて重要であり、その強化に向けて日本の知見・経験が必要であるとして、わが国の技術支援を要請した。2008年12月に発効した日越経済連携協定（EPA協定）においても、ベトナムの食品衛生管理及び動植物検疫に係る能力向上のための技術協力を行うことが明記されている。

### (2) 当該国における食品安全セクターの開発政策と本事業の位置づけ

「第8次社会経済開発5カ年計画（2006～2010）」において、食品とその原料に係る衛生と安全は、農業の発展と国民の生活改善を図るための重要課題とされ、消費者保護のための検査を体系化して食品の衛生と安全の管理のために効果的な対策をとることが示されている。

<sup>1</sup> 衛生植物検疫措置に関する協定。同協定は、WTO協定の設立と同時に発効したもので、食品安全と、動植物の健康のための規制の適用に関するもの。本協定においては、国内外の食品や動植物の衛生に関する国際的な基準や指針、勧告の使用が推奨されるが、科学的根拠に基づく加盟国独自のより高い基準を定めることが可能。

また、「農業農村開発 5 年計画（2006～2010）」は、農水産食品の安全に関し、ASEAN や WTO などの国際的な基準要求事項に即したものとすることを掲げていることに加えて、WTO 加盟と同時に求められる SPS 協定の履行に向けて、2008 年 11 月の首相決定により「SPS 協定実行促進に係る国家行動計画」において基本的な取り組みが示された。同計画には、食品衛生の確保及び諸外国からの害虫や伝染病の浸透の抑制を推進することにより、国内及び輸出用の安全な農産物を供給する旨が明示されており、ベトナムは既存の関係省庁の管理体制の整備に加え、適切な組織体制を構築するべく取り組んでいるところである。

現在草案中の「第 9 次社会経済開発 5 年計画（2011～2015）」においても、国民の健康管理に係る食品衛生と安全の確保、農水産食品の食品衛生と安全の改善が引き続き盛り込まれる見込みである。

### (3) 食品安全セクターに対するわが国及び JICA の援助方針と実績

わが国の対ベトナム国別援助計画における重点分野の 1 つである「社会・生活面の向上と格差是正」において、安全な農林水産物の供給を含む農業技術普及が重点項目に挙げられている。2008 年、日越経済連携協定（EPA 協定）締結に際し、SPS に関する両国間の協力、連携がうたわれたことを踏まえ<sup>2</sup>、食品安全確保に関する SPS センターの設立への協力を目的とした要請がベトナム側からなされたものの、同センター構想については、詳細な機能・実施体制等が具体的ではなかったことから、専門的な見地から十分な検討を経て実施すべきとの考えを踏まえ、わが国は 2009 年 10 月から食品衛生・安全管理に係る政策・制度の助言を行う SPS 政策アドバイザーを専門家として派遣した。同専門家の活動を通じ、ベトナム政府内における SPS をめぐる現状と課題、さらに SPS センター設立に向けてのベトナム側の人的、予算的配置及び考え方が明確になった。特にベトナム側における農水産食品の検査体制としては輸出検査に重きが置かれ、国内食品の安全性確認のためのモニタリング検査の実施は、対象の地域、食品群、検査項目、実施時期が限られているため農水産食品の安全性把握が難しいという課題が認められ、多種多様な農水産食品のモニタリング検査体制の強化が求められていることが明らかになり、農水産食品の安全性確保のために不可欠な農薬・抗生物質・重金属等の残留物質や微生物等の検査体制を強化し、検査官の技能を向上させることが重要と思われることから、さらに 3 年間に及ぶ技術協力プロジェクトを通じてベトナム側の人的及び体制の強化を図るものである。

なお、本案件は、対ベトナム国事業展開計画において、「農業技術普及・地方インフラ整備等プログラム」に位置づけられている。

### (4) 他の援助機関の対応

WTO/SPS 協定第 9 条には、二国間または国際機関を通じた技術援助の促進が規定されており、アジア開発銀行（Asian Development Bank : ADB）やカナダ国際開発庁（Canadian International Development Agency : CIDA）等 SPS に関するワークショップや農産物の安全性

---

<sup>2</sup> <SPS にかかる日越合意>

日越経済連携協定は、2008 年 12 月 25 日に署名され、その第 5 章、衛生植物検疫措置（SPS）で、その要旨として、衛生植物検疫措置に関する照会のための照会所を双方に設置すること、衛生植物検疫措置に関する情報交換、科学的協議及び協力に関する議論などを行う協議メカニズムを設置することを定めている。

に関する体制の整備、マネジメントにかかる研修の実施など数々の協力がなされている。

### 3. 事業概要

(1) 事業目的（協力プログラムにおける位置づけを含む）

本事業は、①パイロットサイトにおける農水産食品に係る検査能力の向上及び、②農水産食品の安全性に係る国家モニタリングプログラム（リスクに即した食品衛生検査体制）の改善、並びに③農水産食品の安全性確保に係る人材育成を通じて、農林水産品質管理局（National Agro-Forestry Fishery Quality Assurance Department：NAFIQAD）における農水産食品の安全性に係る継続的な検査体制の構築並びに強化を目的としており、もって農水産食品の安全性に係る国家モニタリングプログラムの拡充に寄与するものである。

(2) プロジェクトサイト/対象地域名

農業農村開発省（Ministry of Agriculture and Rural Development：MARD）の関連部局：国際協力局 SPS オフィス、NAFIQAD<sup>3</sup>、NAFIQAD Branch<sup>4</sup>（ホーチミン市）、6（カントー市）及び両 Branch の所管地域

(3) 本事業の受益者（ターゲット・グループ）

MARD：国際協力局 SPS オフィス、NAFIQAD、植物防疫局（Plant Protection Department：PPD）、動物衛生局（Department of Animal Health：DAH）

(4) 事業スケジュール（協力期間）

2011年11月～2014年10月を予定（計3年間）

(5) 総事業費（日本側）

約3億5,000万円

(6) 相手国側実施機関

MARD：国際協力局 SPS オフィス、NAFIQAD、PPD、DAH

(7) 投入（インプット）

1) 日本側

- ① 長期専門家：チーフ・アドバイザー(36M/M)、業務調整/研修計画(36M/M)
- ② 短期専門家：プロジェクトの効果的な実施のため、必要に応じて、残留農薬、残留動物医薬品、重金属、アフラトキシン、微生物、サンプリング、GLP（Good Laboratory Practice：試験所精度管理）、モニタリング計画など8分野
- ③ 本邦及び第三国研修 27名程度を予定
- ④ 現地国内研修 OJT（On-the-Job Training）並びに関係者へのエコートレーニングを実

<sup>3</sup> NAFIQAD は、検査官や行政官や幹部、総務部門を含め、組織全体としては約450名（このうち、プロジェクトの直接対象となる幹部管理、検査、分析部門は約300名）。

施予定

⑤ 機材供与（プロジェクト活動に必要な機材供与）

⑥ 現地活動費

2) ベトナム側

① カウンターパート（C/P）の人材配置

・プロジェクト・ディレクター（MARD NAFIQAD 局長クラス）

・プロジェクト・マネージャー（MARD NAFIQAD 副局長クラス）

・カウンターパート（MARD内の関係部局として、国際協力局SPSオフィス、NAFIQAD、PPD、DAH）

② プロジェクト実施に必要な執務室及び施設設備の提供

③ パイロットサイト及び既存の機器、試薬、消耗品、活動予算、輸入機材関税支払い、供与機材の維持管理費

④ その他 (a) 運営・経常費用、(b) 電気、水道などの運用費、(c) その他

(8) 環境社会配慮・貧困削減・社会開発

1) 環境に対する影響/用地取得・住民移転

① カテゴリ分類：C

② カテゴリ分類の根拠：本事業による環境への影響などはない。

2) ジェンダー・平等推進/平和構築・貧困削減

農水産食品の衛生確保は、最終的に国民の健康保護に寄与するものであり、危害にさらされやすい貧困層や妊婦、子ども、老人の健康保護に資することができる。このように、環境（食の安全面）、ジェンダーという点にも配慮したプロジェクト・デザインとなっている。

3) その他

特になし

(9) 関連する援助活動

1) わが国の援助活動

SPS センター設立に係る無償資金協力との連携により、SPS 協定履行に必要な食品の安全確保対策の強化を図る。

2) 他ドナー等の援助活動

CIDA が安全作物プログラムで NAFIQAD ラボへの設備供与や研修を実施しているほか、ADB が 2011 年以降に食品安全プログラムを実施予定である。本プロジェクト及び SPS センターの建設・機材供与の実施に際してはこれらドナーとの役割分担に配慮するとともに、相乗効果発現に向けた連携策を検討することとする。

#### 4. 協力の枠組み

(1) 協力概要

1) 上位目標

農水産食品の安全性に係る国家モニタリングプログラムが拡充することにより、農水産食品の安全性の改善に寄与する。

指標：農水産食品の安全性に係る国家モニタリング統計の作成及び更新

## 2) プロジェクト目標

NAFIQAD において、農水産食品の安全性を継続的に検査する体制が構築、強化される。

指標：①国家モニタリングプログラムを実施する NAFIQAD の担当部署並びに支所が規定される。

②国家モニタリングプログラムの実施計画が試行され、その評価の結果抽出された重点項目に沿って翌年度の実施計画が策定される。

## 3) 成果及び活動

成果 1：NAFIQAD の試験所における農水産食品に係る検査能力が向上する。

指標 1-1 パイロットサイト（対象省はプロジェクト開始後選定）における検査対象が、水産食品のみならず農産食品にも広がる。

指標 1-2 パイロットサイトにおける検査項目数が XXXX に増加する<sup>4</sup>。

指標 1-3 承認された標準作業手順書（SOP）が整備される。

活動 1 ①ターゲット・グループに対して、配属の職員に対するサンプリング、GLP を含めた検査技術研修を実施する、②（高度分析機器を活用した）新たな検査方法に係る研修を NAFIQAD Branch4 及び 6 にて実施する、③NAFIQAD の職員に対して試験所精度管理（GLP）研修を実施する、④検査手法の標準化のために、SOP を制定または改定する。

成果 2：農水産食品の安全性に係る国家モニタリングプログラムが改善される。

指標 2-1 リスク評価<sup>5</sup>を行うためのデータベースが整備される。

指標 2-2 年間検査計画及び結果の公表様式が規定される。

活動 2 ①日本において、C/P に対する行政研修を実施する、②行政研修の成果を元に、モニタリングプログラムの項目及び実施体制を選択・分類する、③パイロットサイトにおいて、活動 2-②を踏まえたモニタリングプログラムを試行し、データベースの評価方法を策定する、④活動 2-③の試行結果を参考にしつつ、データベースの施策反映プロセスを盛り込んだ国家モニタリングプログラムを策定する。

成果 3：農水産食品の安全性確保に係る政府担当者(MARD 国際協力局 SPS オフィス、NAFIQAD、PPD、DAH)が育成される。

指標 3-1 食品衛生行政研修を受講した職員のうち、50%以上が国家モニタリングプログラムの運営・改善に従事する。

指標 3-2 OJT で習得した各研修項目について、少なくとも 1 名がトレーナーとなり、エコトレーニングを実施する。

活動 3 ①本邦研修受講者を対象に、パイロットサイトにおいて OJT を実施する、②OJT にて技術を習得した C/P が、他の試験所の中核技術者を対象に、エコトレーニングを実施する。

<sup>4</sup> 現状と市場の要求に応じて、ターゲットとする検査項目の目標数はプロジェクト開始の早々に協議して決めることとする。

<sup>5</sup> 数多くの食品の検査結果をデータベース化し、食品ごと、生産地域ごと、生産時期ごと、事業者ごとのリスクを導き出すための評価を意図。これをもとに、ハイリスク食品については、検査強化及び指導強化につなげようとするもの。

#### 4) プロジェクト実施上の留意点

- ・指標の基準値・目標値については、R/D 締結時あるいはプロジェクト開始時、さらに中間評価時点で、ベトナム側と協議し、妥当性及び進捗の確認及び見直しを行う。
- ・成果 3 は人材育成を通じて、成果 1 及び 2 の、「検査体制の強化」と「国家モニタリングプログラム改善」に資するものであり、活動 1 及び 2 の進捗を考慮しつつ実施することとする。

#### (2) その他インパクト

WHO/SPS 協定の履行に向けて国内及び輸出用の安全な農産物の供給が可能となる。

### 5. 前提条件・外部条件（リスク・コントロール）

#### (1) 事業実施のための前提条件

- ・プロジェクト実施に不可欠な関連機関の組織機構及び人材が確保される。

#### (2) 成果達成のための外部条件

- ・研修を受講した人材が各配属先で引き続き勤務し、周囲の関係者にその技術、知識を移転する。

#### (3) プロジェクト目標達成のための外部条件

- ・ベトナムの食品安全政策の方向性が変更されない。
- ・ベトナムにおいて深刻な健康被害が発生しない。

#### (4) 上位目標達成のための外部条件

- ・国家モニタリング検査実施のための予算が確保される。
- ・MARD 傘下のラボ及び関係者が役割を適切に果たす。

### 6. 評価結果

本事業は、ベトナムの開発政策、開発ニーズ、日本の援助政策と十分に合致しており、また計画の適切性が認められることから、実施の意義は高い。

### 7. 過去の類似案件の教訓と本事業への活用

「チリ共和国食品安全国家プログラム強化プロジェクト」(2005 年～2008 年)の終了時評価では、ラボ（検査室）の検査・分析の発展のために、適切なラボ（検査室）施設、機材、技術者に加え、機材の継続活用や機器の保守管理のための予算を確保する必要があるとし、また、モニタリング計画の確実な実施のための継続的な研修プログラム、及びモニタリング実施結果について関連食品製造業者へフィードバックする体制並びに、そのモニタリング情報を広く国民に共有できるようなシステムの検討が必要であるとしていた。加えて、すべてのラボ（検査室）における検査部門から独立した信頼性確保部門さらに外部精度管理システムを設置することが望ましいといった食品検査・分析に関する提言がなされていた。本事業は、これらの教訓を踏まえ、プロジェクト実施にあたっては実施から結果のフィードバックまでを包括する形で活動計画を策定することと

する。また、国家モニタリングプログラムの確実な実施のための体制を構築する観点から、ベトナム国内でも農水産食品の取扱量や項目が多くラボの人材や施設が整備されている NAFIQAD Branch 4 と 6 をパイロットサイトに選定した。

## 8. 今後の評価計画

(1) 今後の評価に用いる主な指標

4. (1)のとおり。

(2) 今後の評価計画

事業中間時点：中間レビュー

事業終了 6 カ月前：終了時評価

事業終了 3 年後：事後評価





# 第1章 詳細計画策定調査の概要

## 1-1 調査団派遣の背景と目的

ベトナム社会主義共和国（以下、「ベトナム」と記す）の経済はこの10年間でめざましい発展を遂げ、食料供給量も増加しているが、食品の安全・衛生面に関しては政策制度の未整備や管理者の能力不足等の問題から、適切な管理がなされているとは言い難い状況にある。管理能力の不足は感染症や食中毒の原因となって、特に子どもや妊婦、老人といった弱者が健康被害を受ける危険性が高い。食品輸出はベトナムの重要産業の1つであるが、平成21年（2009）度のわが国の輸入食品にかかる違反事例をみると、アジアでは中国に次ぎ、ベトナムからの輸出食品に関するものが多かったなど、ベトナムの輸出食品に対する信頼性が低下するリスクを抱えている。このため、ベトナム政府は、安全な食品の供給を緊急かつ重要な課題の1つと位置づけている。さらに、ベトナムは2007年にWTOの加盟国となり、物資や人の国境を越えた自由な往来がさらに活発になりつつある状況下で、国際標準に沿った安全な食品を人々に供給することが急務となっている。ベトナム政府は施設や法制度の整備を通じてこれらの状況に適応した社会・制度を構築していく必要性に直面しており、その一環として、WTO/SPS協定〔衛生植物検疫措置協定：Sanitary Phytosanitary (SPS Measures)〕で確保される衛生保護基準を満たすため、安全な食品を人々に供給するうえで必要となる食品等の試験や研修及びリスクアセスメントを行う機関としてSPSセンターを設立することを掲げている。

ベトナム政府は、効果的かつ持続的な食品衛生管理体制を構築するうえで、適切な検査・モニタリング体制の確立が極めて重要であり、その強化に向けて日本の知見・経験が必要であるとしてわが国の技術支援を要請した。2008年12月に発効した日越経済連携協定（EPA協定）においても、ベトナムの食品衛生管理及び動植物検疫に係る能力向上のための技術協力を行うことが明記されている。

これを受け、わが国は2009年10月から食品衛生・安全管理に係る政策・制度の助言を行うSPS（衛生植物防疫）政策アドバイザーを派遣し（任期は2011年10月まで）、SPSに関連する政府及び関連機関の実態調査、SPSセンター構想に係るベトナム側との協議、及びわが国協力枠組みの検討等を進めてきた結果、ベトナム側は、SPSセンターを食品衛生検査及び検査結果の分析等、食品衛生モニタリング検査の中核拠点として創設をはかることとなった。

本案件は、同専門家のこれまでの協力成果を基盤に、将来のSPSセンターへの寄与を見据え、農水産食品の安全性確保のために農薬・抗生物質・重金属等の残留物質や微生物等の検査体制を強化し検査官の技能を向上させることを目的として実施するものであり、今般JICAは、以下に示す目的のため、詳細計画策定調査団を派遣した。

### 〔調査目的〕

- ① SPS政策アドバイザー（2009年10月～2011年10月派遣）からの情報、提言、成果を最大限生かしつつ、ベトナムの国家政策「Comprehensive Development Design for the Health System in Vietnam to 2010 and Vision by 2020」及び2011年7月施行の「食品安全法」、「WTO/SPS協定の履行促進に関する国家アクションプラン（NO.147/2008/D-PM）」の方向性に整合するプロジェクトデザインを検討する。
- ② 協力対象施設の能力及びニーズに十分留意したプロジェクト・デザインを検討する。

- ③ 農業農村開発省及び保健省の関連部署や関連の開発パートナー等より情報収集を行い、コミットメントの程度や動向について留意したプロジェクト・デザインを検討する。
- ④ 協力内容、ベトナム側・日本側双方の責任・役割分担、プロジェクト開始までに行うべき作業とそのスケジュール等について確認し、ベトナム側・日本側双方で合意した事項をミニッツとして取りまとめ、署名交換をする。

### 1-2 調査団の構成

担当分野	氏名	所属
団長・総括	牛尾 光宏	JICA 人間開発部 技術審議役
食品安全検査体制	仲庭 裕司	厚生労働省 医薬食品局 食品安全部監視安全課
アドバイザー	遠藤 泰吾	SPS 政策アドバイザー
協力計画	中岡 香里	JICA 人間開発部保健第二グループ保健第三課
評価分析	松本 彰	A&M コンサルタント有限会社 代表取締役
アドバイザー	狩俣 茂雄	農業農村開発アドバイザー
協力計画	五月女 淳	JICA ベトナム事務所

### 1-3 調査日程

日程		行程
7月24日	日	成田→ハノイ
7月25日	月	8:30 JICA ベトナム事務所との打合せ
		10:00 農業農村開発省 国際協力局、SPS Office、タスクフォースとの協議
		13:00 団内打合せ
7月26日	火	9:00 動物衛生局への表敬、協議、視察
		11:00 在ベトナム日本国大使館への表敬
		14:00 植物防疫局への表敬、協議、視察
7月27日	水	9:00 SPS Office, NAFIQAD との協議
		14:00 ハノイ→ホーチミン
7月28日	木	9:00 NAFIQAD Branch 4 (ホーチミン) への表敬、協議、視察
		14:00 農業農村開発省 副大臣への表敬
7月29日	金	8:00 ホーチミン→カントー
		13:30 NAFIQAD Branch 6 (カントー) への表敬、協議、視察
7月30日	土	5:00 水上マーケット視察
		12:00 カントー→ホーチミン
7月31日	日	終日 資料整理
8月1日	月	8:30 ミニッツ協議 (NAFIQAD Branch 4)
		13:00 ミニッツ署名式
		ホーチミン発
8月2日	火	成田着

## 1-4 主要面談者

### <JICA>

#### JICA ベトナム事務所

- ・ 清水 暁 次長
- ・ 五月女 淳 所員
- ・ Ms. Huong ナショナルスタッフ

### <先方政府関係者>

#### 農業農村開発省 (MARD)

- ・ Mr. Luong Le Phuong (MARD 副大臣)
- ・ Mrs. Hoang Thi Dzung Deputy Director General, ICD, MARD (SPS オフィス局長も兼任)
- ・ Dr. Nguyen Nhu Tiep (NAFIQAD 局長)
- ・ Dr. Le Thanh Hoa Vice Director, Viet Nam SPS Office, MARD
- ・ Mr. Tran Dang Ninh Head of Lab Division, NAFIQAD
- ・ SPS タスクフォースメンバー (PPD, DAH, MOIT 等、MOH からは欠席)

#### 動物衛生局 (DAH)

- ・ Ms. Tran Thi Thu Phuong Officer of Planning Department for International Cooperation, DAH, MARD 他

#### 植物防疫局 (PPD)

- ・ Ms. Tong Mai Sun Deputy Director, Planning Division, PPD
- ・ Ms. Ha Thanh Huong Plant Quarantine Division, PPD
- ・ Mr. Nguyen Thi Anh Tuyet Senior Officer, PPD, MARD

#### NAFIQAD 本部

- ・ Mr. Tran Dang Ninh (Head, Lab Management) 他

#### NAFIQAD Branch 4 :

- ・ Mr. Nguyen Duc Hung (所長)
- ・ Mr. Le Duy Binh (副所長) 他

#### NAFIQAD Branch 6 :

- ・ Mr. Nguyen Chinh (所長)
- ・ Mr. Pham Van Hung (副所長、検疫担当) 他

## 第2章 詳細計画策定調査結果

### 2-1 ベトナムにおける食品安全検査体制の事情

#### (1) 食品安全確保の取り組み

ベトナム政府の食品安全に関する本格的な取り組みは、規制のよりどころとなった食品安全法令の公布が2003年7月と、歴史的にはそう長くはない。その後、2006年、首相決定による「2010年までの食品安全確保のための行動計画」、翌2007年には「食品の安全確保のための緊急対策に関する首相指示」の公布、2008年には「食品安全に関する政令」の公布及び「SPS 協定実施促進に係る国家行動計画」の公布（首相決定第147号）が行われているが、この分野における取り組みは、ベトナムのWTO加盟に伴うSPS協定履行が1つの動議づけとなっているといえる。

また、これと相まって2008年の中国産乳製品のメラミン汚染事件は、ベトナム国民の食品安全意識の高まりの契機となり、特に、近年は農水産食品やその加工品について微生物汚染や残留農薬に対する関心がより一層高まっている。

このような背景のなか、食品安全法が2011年7月1日に施行され、政府関係機関の食品安全に関する取り組みは一段と高まっている状況である。

#### (2) 食品安全管理の所掌

食品安全を所管する省庁は、食品安全法により従前の組織体制が整理され、中央省庁では保健省（Ministry of Health : MOH）、農業農村開発省（Ministry of Agriculture and Rural Development : MARD）及び商工省（Ministry of Industry and Trade : MOIT）の3省が担当し、地方省では、人民委員会がその管轄地域における食品安全管理を担当することとされた。食品等の安全管理の分担は以下のとおり。

##### 1) 農業農村開発省（MARD）

穀物、食肉類及び食肉を使用する製品、水産物、水産物を使用する製品、野菜、根菜、果物及び野菜、根菜、果物を使用する製品、卵、卵を使用する製品、原乳、蜂蜜、蜂蜜を使用する製品、遺伝子組み換え食品、塩、その他政府の規定による食品の安全管理。

##### 2) 保健省（MOH）

食品添加物、加工助剤、密封された飲料、ミネラルウォーター、機能性食品、その他政府の規定による食品の安全管理。

##### 3) 商工省（MOIT）

酒類、ビール、清涼飲料水、加工乳、植物油、粉加工製品、澱粉加工品、その他政府の規定による食品の安全管理。

\* 各省は、管轄範囲における食品生産、食品加工及び食品取引の過程において使用する器具容器包装を担当。なお、食品に係る生産、輸出入、取引の過程における監査、検査、処分もそれぞれの省が担当する。

#### (3) 検査体制

MARDにおいては農林水産品質管理局（National Agro-Forestry Fishery Quality Assurance

Department : NAFIQAD)、植物防疫局 (Plant Protection Department : PPD) 及び動物衛生局 (Department of Animal Health : DAH) があり、それぞれ政策部門と試験検査部門がある。

NAFIQAD は、旧水産省の内部機関の一部が 2007 年の省庁統廃合により、MARD に新設された機関で、農林水産品に対する安全性保証の役割をもつ。水産食品の検査については、従来から輸出検査における実績があり技術的にも一定の評価ができるが、食肉や野菜など農産食品については早急な体制整備が求められている。全国に 2 カ所の地域事務所及び検査機能をもつ 6 カ所の Branch が設置されている。

PPD の主要業務は、植物に係る疾病管理と薬品管理であり、国内及び輸出入における植物防疫に係る政策立案と実施、農薬の使用管理に係る調査研究、農薬及びその取扱いに係るライセンス業務、指導及び農薬の適合性試験。食品衛生検査は、監視部門として植物防疫農薬課、試験検査部門としてハノイとホーチミン市 (Ho Chi Minh City : HCMC) に農薬コントロールセンター (NPCC、SPCC) が配置され、農産物中の残留農薬や重金属検査、微生物検査などが行われているが、検査機能はあまり高くない。

DAH の主要業務は、動物に係る疾病管理と薬品管理であり、疫学、検疫、獣医衛生、家畜農場と畜産農場及び食肉加工場の衛生基準策定、家畜、畜産農場の登録及び監視、動物医薬品及びワクチンの管理。食品衛生検査は、監視部門として動物検疫監視課 (DAQI)、試験検査部門としてハノイと HCMC に国立衛生監視センター (NCHI) が配置され、動物性食品中の細菌、抗生物質、アフラトキシン、乳関連食品のメラミンなどの検査が行われているが、PPD 同様、検査機能はあまり高くない。

地方省人民委員会には、MARD の業務に関連する部署として農業開発局 (DARD) があり、NAFIQAD、PPD、DAH の業務に関連する Sub-Department がそれぞれ配置されて食品安全業務も担う。

MOH にあつては、食品局 (VFA) が政策部門、国立食品管理研究所 (NIFC) が試験検査部門を担当する。NIFC は、2009 年に国立栄養研究所から独立した機関で、食品衛生のほか栄養分析などの検査も行うとともにリファレンスセンターとしての機能ももち、食中毒菌や毒素の検査及び食中毒の原因調査も行っている。しかし、施設や人員等の増強はまだ十分とはいえない。地方省人民委員会には、MOH の業務に関連する部署として Sub-食品局のほか試験部門には医療予防センター (MPC) 及び監視部門の保健局 (DOH) がある。また、省の区レベルでは、保健局 (DOA) があり、MPC が試験部門を兼ねる。

商工省では、輸入輸出政策局が SPS 関連業務、貿易に係る政策策定、輸出業者及び貿易に関係する企業への証明に業務を担当する。食品関連の検査機関に食品工業研究所 (FIRI) があるが、食品加工に利用する科学技術、バイオテクノロジーに係る研究開発、農産物を原料にする食品加工技術、発酵技術、遺伝子技術等の分野における研究、食品・飲料水の工業化に関する技術移転などの事業が主体であり、食品衛生分野の検査はあまり行われない。

また、食品安全法による所掌には含まれていないが、科学技術省 (Ministry of Science and Technology : MOST) も食品安全の試験検査を実施している。MOST は技術基準規格法、製品商品品質法、測定法令を所管し、基準の設定や検査機関の認定、製品の品質管理に関する業務を行う。内部機関の品質基準総局 (STAMEQ) は食品安全基準の設定を担当し、傘下のベトナム認証センター (QUACERT) がベトナム基準、外国基準、国際基準、地域



基準に基づく製品認証、ISO、危害分析重要管理点（Hazard Analysis Critical Control Point : HACCP）、製造管理及び品質管理の基準（Good Manufacturing Practice : GMP）等国際基準に基づくマネジメント認証、関連の研修事業を行う。また、検査機関として品質保証検査センター（QUATEST 1～3）がベトナム北部、中部、南部に配置され、食品栄養分析、環境検査、水質検査のほか食品衛生検査も実施している。設備的にも整っており、他機関からの依頼検査も多い。

#### （4）検査の状況

ベトナムにおける食品衛生検査は、前記の所掌に従って各省傘下の検査機関で行われるが、MARD 及び MOH がその主体となる。

MARD では、農水産食品の輸出入時及び国内において残留農薬、動物医薬品、重金属、微生物、毒素などの衛生検査が行われ、国内における生産段階、加工段階及び市場など流通段階におけるモニタリング検査も行われている。しかし、検査体制としては輸出検査に重きが置かれ、国内食品の安全性確認のためのモニタリング検査の実施は、対象の地域、食品群、検査項目、実施時期が限られているため農水産食品の安全性把握は難しく、多種多様な農水産食品のモニタリング検査体制の強化が求められている。

MARD での食品衛生検査は、前記 3 局の計 10 機関において実施されているが、施設や組織の大きさと検査実施能力には差があり、また、いずれの機関でも検査機器の充実と検査員の検査技術の向上が求められている状況である。これらのうち、ホーチミン市とカントー省に配置される NAFIQAD の Branch 4 及び 6 は、特に貿易が盛んなベトナム南部の地域性もあり、検査実績も多く施設の的にも技術的にも他の検査機関よりも充実しておりかつ今後の重要な検査拠点としても位置づけられている。



魚の冷凍加工工場でのサンプリング



理化学検査室（NAFIQAD Branch4）



分析機器（NAFIQAD Branch6）



微生物検査室（NAFIQAD Branch4）

一方、MOH では食品添加物のほか残留農薬、動物医薬品、重金属、微生物、毒素などの衛生検査も行われるが、管轄の食品や添加物などを対象として輸出入時及び国内の市場やスーパーにおける検査となるため、MARD の検査対象とは基本的に異なり、農水産食品の安全性確保に関しては MARD の検査増強が特に重要となる。

## 2-2 調査時における各機関との協議内容・調査結果概要

今回の詳細計画策定にかかる各関係機関での協議内容、結果は以下のとおり。

### 2-2-1 ICD（国際協力局、農業農村開発省）

本プロジェクトの実施機関であり、国際協力に関する受け入れ窓口である ICD を訪問。なお、同局内に SPS 事務局が設置されており、ICD の次長（会議にも出席）が、同 SPS 事務局のヘッド（室長）も兼務。会議では出席者の自己紹介（同会議には SPS タスクフォースメンバーである NAFIQAD、PPD、DAH、MOST からメンバー出席）、本調査団の目的の説明の後、まず調査日程の確認を行った。その後、SPS 事務局から本プロジェクトの概要について説明し（遠藤専門家作成の PPT 資料を基にして）、情報共有、理解促進を図るいい機会となった。なお、今回、農業農村開発省の副大臣にも別途、面談できる機会もあり、ベトナム側の意欲や協力体制は堅固なことが伺い知れた。

### 2-2-2 DAH（動物衛生局、農業農村開発省）

同局から、ベトナムにおける家畜衛生にかかる行政組織や活動につき説明。その後、質疑応答や、本件への要望等を聴取。面談後、同局のラボを視察（試験所の現状は 2-5-1 「食品安全検査体制の観点から」の記載を参照）。

### 2-2-3 PPD（植物防疫局、農業農村開発省）

同局に関する組織構造や機能、活動にかかる説明を受けた後、質疑応答や、本件への要望等を聴取。PPD からは、本プロジェクトにかかる研修内容や機材供与有無についての質問あり。また NAFIQAD が本邦研修に参加するのではなく、PPD から本邦研修に参加できるのかとの質問あり。面談後、同局 PPD 及び同局に隣接されている植物防疫局北部農薬管理センター

(Northern Pesticide Control Center : NPCC) のラボを訪問視察 (試験所の現状は 2-5-1 「食品安全検査体制の観点から」 の記載を参照)。

#### 2-2-4 NAFIQAD 本部 (農林水産品質管理局、農業農村開発省)

同局から組織の概要及び本件への要望の説明の後、調査団から質疑応答を行った。

なお NAFIQAD に属する職員数や、2011 年度の国家モニタリング計画については資料を後ほど入手し、結果分析した表は以下のとおり。

さらに質疑応答の後、調査団からは 7 月 27 日面談の際には本件のフレームワーク (PDM) 及び M/M ドラフト案の説明とベトナム側からのコメントや修正を行っており、また現地調査の最後、8 月 1 日には最終協議を行い、M/M 並びに添付資料につき双方で合意し署名を行った。

表-1 NAFIQAD 職員数

職員	本部	地域事務所		支所 1	支所 2	支所 3	支所 4	支所 5	支所 6
		南部	中部						
1. 管理部門	4	2	2	2	3	2	3	3	3
2. 総務部門	31	1	1	11	9	15	29	28	29
3. 検査部門	18	4	1	8	10	12	21	16	26
4. 分析部門	5			10	13	10	40	30	44
Total	58	7	4	31	35	39	93	77	102

出所：NAFIQAD 本部からの入手資料並びに支所 4&6 にて入手の資料から抜粋、作成

表-2 国家モニタリングサンプルの推移データ (水産部門)

No.	Program	2006		2007		2008		2009		2010		2011 (計画)	
		対象地域/省	サンプル数	対象地域/省	サンプル数	対象地域/省	サンプル数	対象地域/省	サンプル数	対象地域/省	サンプル数	対象地域/省	サンプル数
1	Sanitation Monitoring Program for bivalve mollusk production areas	*18/8	1677	*16/8	1733	*15/8	1344	*16/9	2889	*16/9	3218	*16/9	2883
2	Monitoring Program for certain substances and residues thereof in aquaculture fish and products thereof	35	2860	35	3325	35	3816	36	3990	36	4075	37	3648
3	Post-harvesting monitoring program on raw-material fisheries products	-	-	-	-	30	1244	33	517	24	461	35	1170
モニタリング総数		4537		5058		6404		7396		7754		7701	

出所：NAFIQAD 本部からの入手資料並びに支所 4&6 にて入手の資料から抜粋、作成



表－２のとおり、国家モニタリングに関して、2006年からのサンプル数の推移が同表から読み取れ、2011年の計画まで含まれている貴重なデータである。このデータでみると、ここ数年、毎年サンプル検査数が著しく増加しているが、このことはベトナム側が食品安全にかかる体制を強化していることを示すと考えられ、評価できる。なお2011年の計画では、水産では生成品にかかるサンプル数が昨年対比、約3倍の1,170サンプルを計画しているのが大きな特徴である。

#### 2－2－5 NAFIQAD支所4（ホーチミン）並びに支所6（カントー）

各局訪問の際には、各局からパワーポイント資料で活動などが説明され、その後、調査団から質疑応答を行った。その後、NAFIQAD4並びに6の各館内ラボを訪問（試験所の現状は2－5－1「食品安全検査体制の観点から」と表－3「実施機関の概要表」の記載を参照）。

また調査団からは、本プロジェクトの構想、特に各機関に関係する活動をはじめPDMの説明、さらに活動開始に係る依頼事項や確認事項等を詳細説明し、合意を得た。

### 2－3 援助機関の協力状況

WTO/SPS協定第9条には、二国間または国際機関を通じた技術援助の促進が規定されており、国際機関や先進諸国にあつては、食品安全ないしSPSに関するワークショップや動植物の検疫分野で数々の資金援助や技術援助が行われてきた。

現時点で、本件と関係する安全作物案件として、CIDA及びADBの事業概況を以下に述べる。

#### 2－3－1 カナダ国際開発庁（Canadian International Development Agency：CIDA）による安全作物プログラム

案件名は、“Food Agricultural Products Quality Development Control Project”。締結署名は2005年6月で、活動開始は2007年3月（なお、プロジェクトドキュメント、プロジェクト実施計画、年次計画・予算の承認等は2008年3～4月）で、全体協力期間は8年間（2005～2013）ながら、実際の支援協力は2008年からなので5年間。予算は1,800万カナダドル（2011年8月現在、1カナダドル＝約78円）。事業実施機関はMARD（受け入れ窓口はNAFIQAD）、保健省（MOH）や科学技術省（MOST）が協力機関。カナダ側の調整機関はカナダモントリオール大学獣医学部。

当該事業の目的は農水産食品の質、安全性、市場性の向上にあるとのことで、主な協力領域は、①質向上（HACCPガイドラインに準じた食品安全システム向上、VietGAP推進等。標準手順マニュアルや品質管理システムの開発作成支援）、②質と安全管理（食品安全にかかるラボ整備、リスク分析等）、③生産の市場強化（安全作物にかかる意識啓発、民間生産業者への市場調査や検査サービス向上等）。なお活動の1部として、NAFIQADラボへの機材供与や、マネジメントにかかる職員研修も一部実施されている模様。全国からパイロット地域（16省）を選び、野菜、果物、茶等を対象に実施。

#### 2－3－2 アジア開発銀行（Asian Development Bank：ADB）による食品安全プログラム2案件

案件名は、“R-CDTA/R-PPTA Kingdom of Cambodia, The Lao People’s Democratic Republic, Socialist Republic of Viet Nam: Trade Facilitation: Improved Sanitary and Phytosanitary (SPS)

Handling in Greater Mekong Subregion (GMS) Trade Project”。事業期間は2016年までとしているが、まだ計画段階。本件は、ベトナムを含む地域協力（対象国は、ラオス、カンボジアとベトナムの3カ国）としてSPS強化に係るキャパシティ能力向上の協力（形態は借款及び無償、さらに相手国政府との協調融資）。うち、ベトナムの場合、融資予定額1,800万ドル、並びに協調融資1,000万ドル（まだ計画協議段階）と政府予算300万ドルで、事業実施機関はMARDとMOH。当該事業ではWTO/SPSにかかる推進が目的で、インフラ整備、人材育成、体制・制度強化をめざした事業展開を計画している。なお、現行ベトナムでの事業展開は遅れ気味とのことだが、2011～2012年度ではまずはベトナム保健省を対象とした協力を行う予定で、MARDからの要請や支援の必要性が認められた時点で2012年以降、SPSセンター建物の建設を始め、インフラ整備構想がある。

もう1つの関連案件としては、“Quality and Safety Improvement of Agricultural Products Project”。融資契約締結は2009年4月で、事業期間は2009年6月～2015年6月までの6年間。総事業費1億1,000万ドルでジャパンファンドによる実施。事業実施機関はMARD。当該事業は、①農産物の安全性/品質に関する法及び体制整備、②安全作物向けインフラ整備、③バイオガス開発プロジェクトの3つのコンポーネントからなる。なお活動の1部として、NAFIQAD下での食の安全監視体制拡張、パイロット省での食品インデックスの導入、MARD/DARD職員に対する食の安全、認証制度管理に関する研修、GAP生産基準の検証等が行われる模様。

#### 参考文献

- CIDA (2009) Food Agricultural Products Quality Development Control Project presented at Coordination forum of food safety projects in Vietnam held on 24 February 2009
- ADB (2010), Concept Paper “R-CDTA/R-PPTA Kingdom of Cambodia, The Lao People’s Democratic Republic, Socialist Republic of Viet Nam: Trade Facilitation: Improved SPS Handling in GMS Trade Project”
- ADB (2008), Socialist Republic of Viet Nam: Preparing the Quality and Safety Improvement of Agricultural Products Project

当該レポート中、以下のサイトからも資料をダウンロード可能：

- <http://www.acdi-cida.gc.ca/CIDAWEB/cpo.nsf/vLUWebProjEn/187D8C90CB1E8575852571BE003C86D2>
- <http://www.adb.org/Documents/Reports/Consultant/39421-VIE/39421-VIE-TACR.pdf>

## 2-4 団長所感

JICA 人間開発部技術審議役 牛尾 光宏

本プロジェクトより早期にかつ包含するものとしてベトナム政府から要請があったものが「SPS センター構想」であった。その背景に関しては既に多くの文書で記されているように、2007年に WTO 加盟国となったこと、そして国際標準に沿った安全な食品を人々に提供することが急務となっていること、さらに日本とのかかわりに関しては日越経済連携協定締結交渉がある。

ところがその要請内容が必ずしも明確ではないことから、案件形成調査ミッションを派遣した。そこでは SPS センターに関する機能について関係機関からさまざまな見解が表明されたところであるが、政府部内での調整が図られているとは言い難い状況であった。そこで SPS センターにかかる協力の検討を行う前段階として長期の専門家を農業農村開発省（MARD）にある SPS 事務局に派遣し、その専門家が関係機関及び現地 ODA タスクフォースとともに議論を重ねながら SPS センターの機能・体制についての構想を固め、その構想に基づいて SPS センターの支援を進めていくことになった。

そして今回のプロジェクトは、SPS センター構想につながるがそれ単独としても成立する技術協力として成立するように調整したもので、長期派遣専門家の努力が結実したものである。

食品の安全性を確保するためには、「Farm to Table」という語に表現されるように生産から消費の全工程において衛生状況が担保されなければならない、そのためには、生産者、加工者、輸送保管者、販売者、消費者が行政とともに不断の共同作業を行う必要があり、その一番基礎となるのが検査能力の向上である。国際的な食品の流通の拡大とともに国際的な基準を順守することが WTO 加盟国として求められていることから、成果はベトナムの経済発展にも少なからず貢献するのではないかと思うところである。

## 2-5 団員報告

### 2-5-1 食品安全検査体制の観点から

厚生労働省医薬食品局食品安全部監視安全課 仲庭 裕司

#### (1) 背景

ベトナムにおいては、食品安全意識の高まり、WTO への加盟による SPS 協定の遵守の必要性などから食品安全法が制定され 2011 年 7 月より施行されたところである。

法の施行により、品目、業務ごとに所管する政府機関が設定されるなど一定の成果は上がっているが、さらなる体制整備が必要である。そのなかでも検査能力の向上とその結果を分析し国家レベルで対応する体制の整備は緊要の課題である。

#### (2) 国家レベルの検査体制の現状について

食品安全の所掌は対象となる食品により異なり、複数の省にわたるが、今回のプロジェクトの対象となる農水産食品については MARD が所掌している。MARD 内で関係する局は NAFIQAD、PPD 及び DAH があり、それぞれがモニタリング計画を策定し、実施することとなっているが、調査時点では一部の食品・項目でしか計画の策定はなされていなかった。

(3) 各試験所の現状について

今回の調査では NAFIQAD・Branch 4（ホーチミン）、6（カントー）、PPD（ハノイ）及び DAH（ハノイ）の 4 カ所の試験所について、ヒアリングと視察を行った。

NAFIQAD・Branch 4 と 6 においては、水産品を中心として、モニタリング検査を計画に従って実施していた。両試験所とも水産品に対する検査実績は検査項目、検体数ともに充実しているが、農産物の検査については緒に就いたばかりであり、検査実績、体制ともに不十分なものであった。検査に使用する機材についてもそれなりに充実しているが、通常業務を行うためにフル回転している状況であった。両試験所とも多数の項目について ISO の試験所認定を受けており、また国際的な精度管理試験にも毎年参加するなど、精度管理も一定の水準に達しているものと考えられた。

PPD においては、輸入食品にかかるモニタリング及び管理等を実施している旨の説明を受けたが、その試験所では検査が活発に行われている様子はなかった。

DAH においては主として家畜疾病に関する業務を実施している旨の説明を受けた。試験所は改築中であり検査実施の様子を見ることはできなかった。

(4) 国家レベルの検査体制の向上について

農水産食品について MARD で所掌している NAFIQAD、PPD 及び DAH の 3 局について、それぞれがモニタリング計画を策定し、実施することとなっているため、現状では不十分である。各局の本部レベルですべての食品・項目で計画の策定及びその計画が実施されるようトレーニングする必要がある。

(5) 各試験所での研修実施の可否について

本プロジェクトではパイロットサイトとなる試験所を選定し、研修等を実施する必要がある。今回調査した試験所のうち NAFIQAD・Branch 4 と 6 については、技術移転を予定している検査項目に関連する項目を、精度管理も含め、既に実施している。また研修（OJT 及びエコトレーニング）用の検査機器を設置するスペースやその運転に必要な環境が整っており、通常業務との整理が必要となるものの、パイロットサイトとして適切であると考える。

(6) 本プロジェクトの必要性などについて

本プロジェクトの実施により、ベトナム側が必要な検査能力を習得し、ベトナムにおける農水産食品の国家モニタリングの質と範囲が充実することとなる。こういった能力は現在のベトナム政府関係機関に不足しているものであり、高い必要性が認められる。

実施可能性について、特に検討すべき点が多い検査技術の移転に関して整理すると、研修に必要な環境などが整った試験所が存在し、当該試験所及びその所管部局より人員、予算などの協力を得ることができることから、十分に実施可能なものであると考える。

(7) 結語

本プロジェクトは、その目標である「NAFIQAD において、農水産食品の安全性を継続的に検査する体制が構築、強化される。」を達成するに十分な計画が立てられており、さ

らに上位目標である「農水産食品の安全性に係る国家モニタリングプログラムが拡充する。」の達成も見込まれる。

## 2-5-2 SPS 政策アドバイザーの観点から

SPS 政策アドバイザー 遠藤 泰吾

### (1) 技術協力プロジェクト形成のポイント

日越経済連携協定（EPA 協定）に基づく SPS 分野への日本の支援としては、ベトナム SPS オフィスとの協議において、現在のベトナムの優先課題をかんがみ食品安全分野への協力が最も妥当であることとなり、近い将来創設が予定されている SPS センターにあっても、食品安全確保のための中核試験検査機関及びリファレンス機関としての機能をもつこととなった。

このため、本プロジェクトは、SPS センター創設に先駆けて実施し、日本の食品安全に係る検査技術を導入するとともに農水産食品全般の安全性把握が可能となる検査システムを構築し、それを実施できる人材を育成することを核として組み立てられた。また、本プロジェクトの成果は、将来の SPS センターにおいても活用されることが想定されており、本プロジェクトは早期の実施が期待されている。

### (2) 内容と方法

技術移転項目として、残留農薬や動物医薬品、重金属、微生物、アフラトキシンが選定されたが、特に、世界に約 900 物質が存在するといわれる農薬に係る残留検査は、できるだけ多くの項目を一度に検査する技術と、微量分析における高い検査精度が求められるため、高度な検査方法と検査技術の移転が必要であるとともに、リスクに応じた検査項目の変更にも対応できる検査方法開発の技術も必要となる。

上記検査方法としては、高感度かつ高精度の機器分析法が多いため、それぞれの検査目的に応じた適切なスペックをもつ液体クロマトグラフタンデム型質量分析装置（High Performance Liquid Chromatograph-Tandem Mass Spectrometry : LC/MSMS）やガスクロマトグラフ質量分析装置（Gas Chromatograph-Mass Spectrometry : GC/MS）などの分析機器を使用することが前提となる。パイロットサイトとなる NAFIQAD Branch 4 及び 6 に配備されている分析機器のなかには、本プロジェクトにおける研修に適切かつ使用も可能なものもあるが、ルーチン業務において頻繁に使用されていることもあり、研修を実施するための機器の供与が必要となる。

また、上記の検査の信頼性を得るための技術として試験所精度管理（Good Laboratory Practice : GLP）、検査結果の評価の前提となる試験品のサンプリングに関する技術指導、さらに、モニタリングプログラムを構築するための食品衛生行政研修が設定された。

技術移転の方法としては、本邦研修、短期専門家による OJT（On-the-Job Training）及びエコートレーニングの 3 段階の研修を通じて、検査員の技術向上、指導者養成及び技術の浸透を図ることとした。本邦研修においては、C/P が帰国後に行うべき作業事項について日本人専門家と十分検討することが重要で、C/P は、帰国後にベトナムの検査環境に合わせた試薬調製や分析機器のセットアップなどの準備を行う必要がある。その後、短期専門



家による OJT において、これをレビューし検査実施標準作業手順書（Standard Operational Procedure：SOP）を完成させ、C/P を講師としたパイロットサイトでのエコートレーニングにおいて、他の検査機関の検査員を対象に検査実習を行うのが一連の流れとなる。

### （3）ベトナム関係機関の状況

#### 1）NAFIQAD

本プロジェクトの実施機関となることもあり、局長以下本プロジェクトに対する取り組みは意欲的であり、研修場所となる Branch 4 及び 6 における期待感も高い。

Branch 4 及び 6 にあっては、他の機関に比べてルーチン検査業務が充実しており、検査員も多く動きも活発で、試験室は十分な広さとはいえないまでも、研修場所として必要なスペースは確保可能であり、供与機材の設置場所に問題はない。

検査に必要な試薬、抽出カラム等の消耗品類の調達は、物にもよるがおおむね 1～2 週間で可能で、日数を考慮に入れば必要な試薬等や検査部品等の入手に問題ないと思われる。分析機器のメンテナンスは、自らによる日常点検と機器サプライヤーによる校正を含む点検も実施しており、供与した機材の適正な継続使用については問題ないものとする。

また、有機溶媒の対処や有害微生物の対処など、検査員の作業環境衛生への配慮もあり、研修時の安全面に特に問題はないといえる。

現在の NFIQAD における人員配置は表－4 のとおりで、本プロジェクトにおける C/P 候補の問題はないといえる。また、モニタリング検査における検査検体件数及び検査実施項目については別添 1、2 を参照。

表－4 NAFIQAD の人員配置

Staffs	Head office	Regional authorities		Branch1	Branch2	Branch3	Branch4	Branch5	Branch6	Total
		South	Central							
1. Management	4	2	2	2	3	2	3	3	3	24
2. Administration	31	1	1	11	9	15	29	28	29	154
3. Inspector	18	4	1	8	10	12	21	16	26	116
4. Analyst	5			10	13	10	40	30	44	152
Total	58	7	4	31	35	39	93	77	102	446

#### 2）SPS オフィス

SPS オフィスは、首相決定により MARD 内に組織された機関であり、SPS 関連事項の情報収集、国家情報ネットワークの運営や国際協力などの業務を行う。SPS センター構想や本プロジェクトも含めた SPS 関連事項を所掌することから、本プロジェクトにおいては NAFIQAD 等関係機関の調整役となる。したがって、本邦研修やベトナムでの OJT 及びエコートレーニングの調整や人材の選定等に際し関与することとなるため、NAFIQAD とよく連携して SPS オフィスとの対応を図ることが必要といえる。

### 3) PPD 及び DAH

PPD 及び DAH は、協力機関として本邦研修、OJT、エコトレーニングへの参加が可能となる。NAFIQAD が主体ではあるが、協力機関として積極的な参加が望ましいことから、本プロジェクトの理解を十分に促すことが肝要。

#### (4) プロジェクト実施上の課題

- ・ 本プロジェクトにおける研修は、本邦研修及び OJT を受ける C/P として、基本的な技能を有する検査員が対象となる必要がある。一般に、ベトナム政府内の人選にあっては、研修への適性のほか、役職や年齢の理由から選定されることもままあるため、事前にベトナム側の理解を促す必要がある。
- ・ NAFIQAD、PPD 及び DAH 本部では、英語によるコミュニケーションが可能だが、検査機関の中堅検査員が必ずしもそうでない場合もある。この場合、本邦研修に参加する C/P については、ベトナム語の通訳の手配を考慮に入れる必要がある。

#### 2-5-3 農業農村開発アドバイザーの観点から

農業農村開発アドバイザー 狩俣 茂雄

##### (1) 本技術協力案件要請までの経緯

本技術協力案件がベトナム側より要請されるまでの経緯は以下のとおりである。

###### 1) ベトナム国内外からの食品安全確保への要請

近年のベトナムは、年間 10% 近い経済成長をみせ、特に都市部への人口集中が起こっている。こうした都市部において、亜熱帯から熱帯という気候条件の下、食中毒の発生の危険性が高まっている。さらに、経済成長を通じて生まれた比較的富裕な人々は、残留農薬や食品添加物についての知識をもつようになり、より安全な食品を求めるようになってきている。このような情勢のなか、2008 年には中国においてメラミン入りの粉乳による乳幼児の死亡事件が発生し、ベトナムに輸入されている粉乳にも混入されている疑いが生じたため、国民の不安が高まった。

一方、ベトナムは WTO 加盟を契機として、食品や農産物の輸出・輸入の増加が見込まれている。特に、水産物の輸出は当国の重要な外貨獲得手段であり、農村地域における多くの人々の就労先でもある。野菜や果実等の農産品についても、政府として今後輸出を伸ばしていく方針である。しかしながら、これらの輸入国における安全基準を満足させるための検査体制の確立が遅れているため、しばしば円滑な輸出の障害になっているのが現状である。

###### 2) EPA 交渉を通じての日本への要請

こうしたなか、日越経済連携協定 (EPA 協定) に関する協議のなかで、国内の食品安全及び農産物貿易を促進するため、その安全性確保に関する 2 つの具体的な協力案件の要請がなされた。1 つは農産物、特に野菜の安全性確保に関するものであり、2 つ目は食品安全確保に関する SPS センターの設立への協力である。前者については、2010 年 6 月より 3 年半を期間として、農業農村開発省作物生産局において「農産物生産体制強化

計画」として技術協力が開始された。

SPS センター設立構想は、首相から農業農村開発省（MARD）に指示があったとされている。このため MARD では、日本にこの設立を依頼することとして、EPA 交渉のなかで要請を行ったと思料される。当初の構想は、MARD のみならず保健省（MOH）の所管である飲食店や小売店の食品衛生なども包括的に取り扱う機関として、内閣の下に置くこととされていた。日本側としても、これに対する協力について積極的な検討を開始したものの、その内容について不明な点が多かったことから、日本大使館より口上書により疑問点を質することとなった。この回答によれば、このセンターは次のような機能をもつこととなる。

- ① 動物や植物の伝染病の診断（ウイルス、バクテリア、寄生虫など、食品の汚染や動植物の病気の原因となるもの）DNA 鑑定を行うものも含む（有害な物質を見つけ出すために遺伝子バンクにあるものと比較することで確認する DNA 鑑定）
- ② 残留物分析（有機や無機物の混合化学物質、抗生物質など作物栽培や畜産に使用されるもの）
- ③ 有害物の確認（バクテリアや菌類など、農林産物を保存・加工する過程で発生するものによる病気の発生）

SPS センターの実験は、他の SPS 分野の専門実験室による実験結果の対照基準となる。SPS センターは SPS に関する国家管理・監視機能を有する地域実験室のための専門家の養成にも加わる。

さらに、JICA においても、これらの回答に対してさらにこのセンターの業務の範囲や人員確保に関する方法について質問を行った。

ベトナム側では、これと並行して日本側に無償資金協力の要請の準備を進めることとなった。この構想では、センターの建物、機材、人材育成を含めて 1,000 万 USD であり、2012 年までに完成するものである。この要請書は、MARD から計画投資省（Ministry of Planning and Investment : MPI）へ提出された。

## （2）SPS アドバイザーの派遣

SPS センター構想については、日本側は無償資金協力とこれに付随する技術協力について積極的に検討することとなったものの、「各機関の既存の業務を超える業務」といった表現のように具体性に欠けるものであることから、やはり専門的な見地から十分な検討を経て実施すべきとの結論を得、日本側関係省である厚生労働省の協力を得て、SPS アドバイザーを個別専門家として派遣することをベトナム側に打診した。この要請は、ベトナム側より 2008 年末に日本側に提出されたことから、2009 年度案件として採択され、派遣が決定した。

さらに、こうした専門家の業務やベトナム側の体制を確認するため、JICA より 2 次にわたる調査団が派遣された。これらの調査を通じて、アドバイザーは MARD 国際協力局 (ICD) を C/P とすること、SPS センターの機能や規模を検討し、無償資金協力及びこれに付随する技術協力についての要請書の作成を支援することが確認された。一方この段階でベトナム側からは、本件を内閣の下において保健省などとの共同で設立することは、手続き上困



難であるとの見解があり、MARD の所管にかかる事項のみを実施する機関としたい旨の表明があった。なお、アドバイザーに対する資料提供を目的として、食品衛生に関する関係機関やドナーの活動を調査するため、JICA 事務所ではローカルコンサルタントによる資料収集も行った。さらに、関係機関の SPS センター構想に対する理解を得るため、ワークショップも実施された。本アドバイザーは 2009 年 10 月にベトナムに赴任した。

### (3) 技術協力と無償資金協力の関係

本件アドバイザーは、ベトナムの食品にかかる検査機関や関係省庁を調査した結果、検査を行っているサンプル数や、検査機関の数、検査を行う職員の数、ベトナムの食品の衛生水準を高めるには極めて少ないこと、機関同士の連携も十分でないことなどから、無償資金協力に先立ち、技術協力を実施するべきである旨提案を行った。JICA としてはこの提案が適切であることから、ベトナム側とも協議を行い、技術協力の要請書の作成を行うこととなった。

ベトナム側は、当初食品衛生のみならず、動物衛生や植物の病気に関する事項も含めた協力を提案したが、日本側で対応可能であり、ベトナム側としても最も喫緊の課題である食品の安全に関する事項に絞って協力を行うことで双方の合意が得られた。また、実施主体について、当初は農林水産品質管理局 (NAFIQAD)、植物防疫局 (PPD)、動物衛生局 (DAH) の 3 者を対象として考えていたが、今後これまで水産品を中心に検査を行ってきた NAFIQAD が、新しい法制度の下、農産品や畜産品についても検査を行うこととなったこと、他の機関と比べて技術協力の成果を全国的に展開する際の中核的機関になりうることから、これを主たる C/P 機関とした。そのうえで、ICD を窓口として他の機関にも成果が波及するようにした。この要請は、2011 年度要求として MARD から MPI を通じて日本側に提出された。

一方の無償資金協力については、アドバイザーが組織機能の構想、建物の規模やレイアウト、基本的な機材の選定に関する提案をベトナム側に行ったうえ、機材についての要請を無償資金協力として日本側に提出することとなった。しかしながら、これを受けた MPI においては、この構想について、組織や土地建物に関する検討を MARD が十分行っていないとして、これを保留していた。このため、MARD はこうした構想を検討する旨を MPI に約束し、無償資金協力の要請も 2011 年前半に日本側に提出されたものである。

表-3 プロジェクトパイロサイトの実施機関の概要 (NAFIQAD支所4 (ホーチミン) & NAFIQAD支所6 (カントー))  
 NAFIQAD=農林水産品品質管理局

	NAFIQAD支所4(ホーチミン)	NAFIQAD支所6(カントー)
所在地	30 Ham Nghi Street, Dist.1, HCMC	386C, CMY8 Street, Bui Huu NghiaWard, Binh Thuy Dist, Can Tho
その他参考事項	本部及び微生物検査部門は、タンソンニヤット空港 から約30分のHCMC中心街に所在。理化学検査部門は2011年当初、HCMC中心部から約6km離れた256/21/Bach Dang Street, Dist Binh Ynanh, HCMCの施設に移転。施設が老朽化している微生物部門についても2012年に移転の計画あり。	カントー市中心部から車で約25分、空港から約20分の場所に所在。敷地内に新たな施設を併設工事中。
スタッフ数	計93名体制。幹部3名(所長、2副所長)、監視部門21名、検査部門(化学):17名、微生物:23名)、総務・証明書部門29名(2011年6月現在)。	計102名体制。幹部3名(所長、2副所長)、水産品部門24名、農産品部門2名、検査部門44名、総務・証明書部門29名。
主要メンバー	Mr. Nguyen Duc Hung(所長)、Mr. Le Duy Binh(副所長)	Mr. Nguyen Chinh(所長)、Mr. Pham Van Hung(副所長 - 検査担当)
組織状況		
①管轄地域	HCMを中心に周辺10 地方省で、主な機能は農水産物の品質と食品安全衛生の管理。	カントー周辺の7地方省で、主な機能はBranch4と同様。
②主要業務	食品安全衛生に係るルーチン検査、輸出入水産物の検査及び証明、研修・相談、モニタリングプログラム。ただし、モニタリング検査は養殖水産物、二枚貝について、また収穫後の水産食品について行われ、農産食品については本格化していない。なお、地方省においては、Branchの指示、指導の下でLocal Authorities (Sub-Department) がサンプリング等を実施。	同左
施設状況	検査施設は、以前、銀行として使われていた古く複雑な構造となっており、試験室として使いつらい構造であるが、検査のコンタミネーション防止に工夫を凝らしている。理化学検査室は、3回建てのビル、動物医薬品、重金属、栄養分析などを中心に実施。ともに研修スペースは1度に4~6名のエコトレーニングにも十分対応できる。	建物の1階部分が検体受付と微生物検査の試験室で、2階及び3階が化学検査室。スペースはエコトレーニングにも十分対応でき、さらに、今年度内に敷地内に新たに施設が建設されることになっており、スペース確保に問題はない。
検査施設の概況	試験検査に必要な水、ガス、電力については、基本的に問題はない。	同左
検査関連概況	水産品中心の検査。農産品の残留農薬検査項目数は16。重金属は、Cd, Hg, Asなどの検査を実施。	水産品中心の検査。農産品の残留農薬検査項目数は40。溶媒抽出には分液ロートを使用するが人力で実施。重金属については、Cd, Hg, Asなど検査を実施。
主要機材及びび状況	LC/MSMSの機種はWaters Quattro micro TMAPIを2台保有。GC/MS、GC/ECDが1台ずつ。GC/MSMSの配備なし。HPLCは10年ほど前の機種もメンテナンスを重ねて使用されている。ロータリーエバポレーターは4台のみで、研修時に不足する可能性あり。機器分析用ガスは5ナイン~9ナインを使用。遺伝子解析用サーマルサイクラー、電気泳動装置、リアルタイムPCR、CCDカメラについても一式あり。	動物医薬品検査に用いるLC/MSMSは、Waters Quattro micro TMAPI及び2010年12月に上級機種の水産品Xebo TQを配置。GCの検出器はECDのみ。HPLCは10年ほど前の機種もメンテナンスを重ねて使用されている。遺伝子解析用サーマルサイクラー、電気泳動装置、リアルタイムPCR、CCDカメラについても一式あり。

(別添 1)

## NAFIQADにおける水産品関連のモニタリング検査数

No.	Program	2006		2007		2008		2009		2010		2011 (according to plan)	
		Covered areas/ provinces	Number of Samples	Covered areas/ provinces	Number of Samples	Covered areas/ provinces	Number of Samples	Covered areas/ provinces	Number of Samples	Covered areas/ provinces	Number of Samples	Covered areas/ provinces	Number of Samples
1	Sanitation Monitoring Program for bivalve mollusk production areas	18/8	1677	16/8	1733	15/8	1344	16/9	2889	16/9	3218	16/9	2883
2	Monitoring Program for certain substances and residues thereof in aquaculture fish and products thereof	35	2860	35	3325	35	3816	36	3990	36	4075	37	3648
3	Post-harvesting monitoring program on raw-material fisheries products	-	-	-	-	30	1244	33	517	24	461	35	1170
Total of Samples			4537		5058		6404		7396		7754		7701

(別添 2)

## NAFIQADにおいて実施されている食品検査項目

動物医薬品	残留農薬	重金属	その他の化学検査	毒素	微生物
<i>Chloramphenicol</i>	<i>Trichlofon(Diptrex)</i>	<i>Pb</i>	<i>Malachite green</i>	<i>AflatoxinB1,B2,G1,G2</i>	<i>E.coli</i>
<i>Nitrofurantoin(AOZ)</i>	<i>Aldrine</i>	<i>Cd</i>	<i>Leuco Malachite green</i>	PSP	<i>Salmonella spp.</i>
<i>Furaltadori(AMOZ)</i>	<i>Dieldrine</i>	<i>Hg</i>	Histamin	ASP	TCP
<i>Furazolidone(AHE)</i>	<i>Endrine</i>	As	Deamethasone		TCP (30°C)
<i>Nitrofurazone(SEM)</i>	<i>Heptachlor</i>		Melamine		大腸菌群
<i>OTC</i>	<i>Hexachrobenzen</i>		Brilliant green		<i>Staphylococcus aureus</i>
<i>CTC</i>	<i>DDT</i>		Crystal violet		<i>Shigella spp.</i>
<i>TC</i>	<i>Cis-Chlordane</i>		Leucocystal violet		<i>Vibrio cholerae</i>
<i>Sulfadiazinethoxine</i>	<i>Lindane</i>		Benzoic acid		<i>Vibrio parahaemolyticus</i>
<i>Sulfachloropyridazine</i>	Cis-Chlodan		Sorbic acid		<i>Vibrio parahaemolyticus</i>
<i>Sulfamethoxazole</i>	Trans-Chlodan				<i>Campylobacter spp.</i>
<i>Sulfamerazine</i>	2,4-D				<i>Clostridium botulinum</i>
<i>Sulfamethazine(Sulfamidin)</i>	2,4-DDE				<i>Clostridium perfringenes</i>
<i>Sulfathiazole</i>	$\alpha$ Endosulfan				Sulfite reducing clostridia
<i>Sulfadiazin</i>	$\beta$ Endosulfan				Listeria monocytogenes
<i>Sulfonamid</i>	Chlorothalonil				Enterococci
<i>Quinolones</i>	Fipronil				<i>Bacillus cereus</i>
<i>Ciprofloxacin</i>	Imidacloprid				Thermophile anaerobic microorganisms in canned food
<i>Enrofloxacin</i>	Pendimethalin				Mesophile anaerobic microorganisms in canned food
<i>Flumequin</i>	Propiconazole				Mould/Yeast
<i>Difloxacin</i>	Trifluralin				
<i>Sarafloxacin</i>	Cis-Permethrin				
<i>Oxalic acid</i>	Trans-Permethrin				
<i>Danofloxacin</i>	Cyfluthrin				
<i>Difloxacin</i>	$\alpha$ Cypermethrin				
<i>Norfloraxine</i>	Fenvalerate				
<i>Flofenacol</i>	Abamectin				
<i>Trimethoprim</i>	Ivermectin				
<i>Florfeni</i>	Emamectin				
<i>Diethylstilbestrol</i>	Acephate				
<i>Methylstilbestrol</i>	Carbendazim				
Sulfachinoxaline	Chlorpyrifos				
Sulfamethoxyipyridazine	Diazinon				
Sulfanilamide	Dichlorvos				
Sulfadoxine	Malathion				
Praziquantel	Metalaxyl				
Florphenicol	Methamidophos				
Spiramycin	Profenofos				
Tilmicosin	Trichlorfon				
Tylosin					
AHD					
Doxycycline					
Clenbuterol					
Salbutamol					
Ractopamine					
Brombuterol					
Mabuterol					
Fenoterol					
Cimbuterol					
Terbutaline					
Cimaterol					

\* 太字はモニタリング検査対象項目

## 第3章 プロジェクトデザイン

### 3-1 プロジェクト目標

プロジェクト目標：NAFIQADにおいて、農水産食品の安全性を継続的に検査する体制が構築、強化される。

- (指標) ・ 国家モニタリングプログラムを実施するNAFIQADの担当部署並びに支所が規定される。
- ・ 国家モニタリングプログラムの実実施計画が試行され、その評価の結果抽出された重点項目に沿って翌年度の実実施計画が策定される。

### 3-2 上位目標

上位目標：農水産食品の安全性に係る国家モニタリングプログラムが拡充することにより、農水産食品の安全性の改善に寄与する。

- (指標) ・ 農水産食品の安全性に係る国家モニタリング統計の作成及び更新

### 3-3 成果（アウトプット）と活動

成果1：NAFIQADの試験所における農水産食品に係る検査能力が向上する。

- (指標)
- 1-1 パイロットサイト（対象省はプロジェクト開始後選定）における検査対象が、水産食品のみならず農産食品にも広がる。
  - 1-2 パイロットサイトにおける検査項目数がXXXXに増加する<sup>6</sup>。
  - 1-3 承認された標準作業手順書（SOP）が整備される。
- (活動)
- 1-1 ターゲットグループに対して、配属の職員に対するサンプリング、GLPを含めた検査技術研修を実施する。
  - 1-2 （高度分析機器を活用した）新たな検査方法に係る研修をNAFIQAD Branch 4及び6にて実施する。
  - 1-3 NAFIQADの職員に対して試験所精度管理（GLP）研修を実施する。
  - 1-4 検査手法の標準化のために、SOPを制定または改定する。

成果2：農水産食品の安全性に係る国家モニタリングプログラムが改善される。

- (指標)
- 2-1 リスク評価<sup>7</sup>を行うためのデータベースが整備される。
  - 2-2 年間検査計画及び結果の公表様式が規定される。
- (活動)
- 2-1 日本において、C/Pに対する行政研修を実施する。
  - 2-2 行政研修の成果を元に、モニタリングプログラムの項目及び実施体制を選択・

<sup>6</sup> 現状と市場の要求に応じて、ターゲットとする検査項目の目標数はプロジェクト開始の早々に協議して決めることとする。

<sup>7</sup> 数多くの食品の検査結果をデータベース化し、食品ごと、生産地域ごと、生産時期ごと、事業者ごとのリスクを導き出すための評価を意図。これをもとに、ハイリスク食品については、検査強化及び指導強化につなげようとするもの。

分類する。

- 2-3 パイロットサイトにおいて、活動2-2を踏まえたモニタリングプログラムを試行し、データベースの評価方法を策定する。
- 2-4 活動2-3の試行結果を参考にしつつ、データベースの施策反映プロセスを盛り込んだ国家モニタリングプログラムを策定する。

成果3：農水産食品の安全性確保に係る政府担当者（MARD 国際協力局 SPS オフィス、NAFIQAD、PPD、DAH）が育成される。

- (指標)
- 3-1 食品衛生行政研修を受講した職員のうち、50%以上が国家モニタリングプログラムの運営・改善に従事する。
  - 3-2 OJTで習得した各研修項目について、少なくとも1名がトレーナーとなり、エコトレーニングを実施する。
- (活動)
- 3-1 本邦研修受講者を対象に、パイロットサイトにおいてOJTを実施する。
  - 3-2 OJTにて技術を習得したC/Pが、他の試験所の中核技術者を対象に、エコトレーニングを実施する。

### 3-4 投入（インプット）

日本側（総額3億5,000万円）

① 専門家派遣

長期専門家：チーフアドバイザー、業務調整/研修計画

短期専門家：残留農薬、残留動物医薬品、重金属、アフラトキシン、微生物、サンプリング、GLP（Good Laboratory Practice：試験所精度管理）、モニタリング計画など8分野

② プロジェクトスタッフ配置

③ 本邦研修及び第三国研修

④ 機材供与

⑤ プロジェクト運営に必要な経費  
事務管理費、国内交通費、研修費、他

ベトナム側

① カウンターパート配置

② プロジェクト事務所及び付帯設備、実験機材など必要な資機材の提供

③ プロジェクト運営に必要な経費

### 3-5 外部要因（満たされるべき外部条件）

① 前提条件

- ・プロジェクト実施に不可欠な関連機関の組織機構及び人材が確保される。

② 成果達成のための外部条件

- ・研修を受講した人材が各配属先で引き続き勤務し、周囲の関係者にその技術、知識を移転する。

- ③ プロジェクト目標達成のための外部条件
- ・ベトナムの食品安全政策の方向性が変更されない。
  - ・ベトナムにおいて深刻な健康被害が発生しない。
- ④ 上位目標達成のための外部条件
- ・国家モニタリング検査実施のための予算が確保される。
  - ・MARD傘下のラボ及び関係者が役割を適切に果たす。



## 第4章 事前評価

以下の視点から本プロジェクトにかかる計画を評価した結果、協力の実施は適切と判断される。

### 4-1 妥当性

以下の理由から本プロジェクトの妥当性が高いと見込まれる。

#### (1) ベトナムのニーズ、政策に対する妥当性

- ベトナムは2007年にWTOの加盟国となり、物資や人の国境を越えた自由な往来がさらに活発になりつつある状況下で、国際標準に沿った安全な食品を人々に供給することが急務である。「WTO/SPS協定の履行促進に関する国家アクションプラン (NO.147/2008/D-PM)」でも明記されているとおり、現実にはベトナムにおける食品安全面における人的・技術的資源が不足していることから、本プロジェクト実施の意義は高い。
- さらに、ベトナム政府は施設や法制度の整備を通じて、これらの状況に適応した社会・制度を構築していく必要性に直面しており、その一環として、WTO/SPSで確保される衛生保護基準を満たすため、安全な食品を人々に供給するうえで必要となる食品等の試験や研修及びリスクアセスメントを行う機関としてSPSセンターを設立することを掲げている。本件では、まず農水産食品の安全性を担う機関である農林水産品質管理局 (NAFIQAD)<sup>8</sup> をプロジェクトのカウンターパート機関として位置づけ、将来SPSセンターが創設された際にその担い手となる人材を育成することが目的であることから整合性が高い。
- ベトナムでは2010年6月に食品安全法が制定、翌2011年7月には施行され、食品の安全性にかかる制度整備を進めており、食品検査にかかる体制の構築を急務としている。

#### (2) 日本の援助事業としての妥当性

- 2008年12月に発効した日越経済連携協定 (EPA 協定) において、衛生植物検疫措置に関し、情報交換、科学的協議及び協力に関する議論などを行う協議メカニズムを設置することを両国が合意しており、わが国はベトナムの食品衛生管理及び動植物検疫に係る能力向上のための技術協力を行うことが明記されていることから、本プロジェクトがもつ外交的意義は大きい (表-5 参照)。
- これまで、わが国は2009年10月から食品衛生・安全管理に係る政策・制度の助言を行うSPS (衛生・植物防疫) 政策アドバイザーを派遣し (任期は2011年10月まで)、SPSに関連する政府及び関連機関の実態調査、SPSセンター構想に係るベトナム側との協議、及びわが国協力枠組みの検討等を進めてきた。本プロジェクトは、同専門家のこれまでの協力成果を基盤に、将来のSPSセンターへの寄与を見据え、農水産食品の安全性確保のために農薬・抗生物質・重金属等の残留物質や微生物等の検査体制を強化し検査官の技能を向上させることを目的として実施するものであり、本プロジェクトの妥当性は高い。
- 食品輸出はベトナムの重要産業の1つであるが、2009年度のわが国の輸入食品にかかる違反事例をみると、アジアでは中国に次ぎ、ベトナムからの輸出食品に関するものであった (表-6 参照) 等、ベトナムの輸出食品に対する信頼性が低下するリスクを今も抱えている。こ

<sup>8</sup> MARD内の部局で、農水産食品すべての安全性保証の役割を担い、全国に南北2カ所の地域事務所が設置され、さらに6カ所の支所が設置されている。



うした状況のなか、本プロジェクトの実施によって、ベトナムにおいて有効な対策が講じられれば、わが国をはじめ、ベトナムからの輸出食品に対する安全性の確保にも貢献することが期待される。

- ・ 2010年6月に閣議決定された「新成長戦略」のなかでも、わが国の「安全・安心」などの制度のアジア展開が示されており、食品においても、流通の多様化・国際化等を踏まえ、アジア諸国と共同しつつ、食品安全基準の国際標準化作業等に積極的に貢献するとあることから、本プロジェクト実施の意義は高い。

表－5 SPSにかかる日越合意

＜SPSにかかる日越合意＞
日越経済連携協定（JVEPA）は、2008年12月25日に署名され、その第5章、衛生植物検疫措置（SPS）で、その要旨として、①衛生植物検疫措置に関する照会のための照会所を双方に設置すること、②衛生植物検疫措置に関する情報交換、科学的協議及び協力に関する議論などを行う協議メカニズムを設置することを定めている。

表－6 輸入食品における残留動物用医薬品に係る違反事例

＜残留動物用医薬品に係る違反事例＞
①全105件のうち24.8%を占める26件がベトナムからの輸出食品に関するもの。品目別、違反内容別の主な違反事例としては、ベトナムの場合、エビのクロラムフェニコール及びフラゾリドン（AOZ）が上位を占めている（平成21年度：平成22年8月、厚生労働省医薬食品局食品安全部、「輸入食品監視指導計画に基づく監視指導結果」より抜粋）。
②全115件のうち37.4%を占める43件がベトナムからの輸出食品に関するもの。品目別、違反内容別の主な違反事例としては、ベトナムの場合、エビのクロラムフェニコール及びフラゾリドン（AOZ）が上位を占めている（平成20年度：平成21年8月、同上資料より抜粋）。
③全154件のうち63%を占める97件がベトナムからの輸出食品（平成19年度）
出所： <a href="http://www.mhlw.go.jp/topics/yunyu/kanshi/index.html">http://www.mhlw.go.jp/topics/yunyu/kanshi/index.html</a>

## 4－2 有効性

以下の理由により、本プロジェクトの有効性は高いと見込まれる。

### (1) プロジェクト目標と成果の因果関係

本プロジェクトの目標は、ベトナムにおける農水産食品の安全性を継続的に検査する体制の構築であり、この目標達成のため、まず何より多種多様な食品群に対する検査能力の向上や国家モニタリング・プログラム（リスクに即した食品衛生検査体制）の改善、強化をめざしている。さらにそれを担う人材の育成、特に食品安全の確保に必要なモニタリング検査を行える検査官に対する指導技能を備えたトレーナーの育成によって、本プロジェクト終了後もベトナム側で継続して検査が定期的実施できるようになることが期待されている。農水産食品の安全性確保のためには、新しい知識・ノウハウ（高度機器分析手法の導入による新たな検査手法の習得とその吸収）や、リスク評価やハイリスク食品の検査強化を含む検査システムの改善、人材育成が不可欠であることから、これらの取り組みは、プロジェクト目標の達成に有効に結びつくものと考えられる。

＜本プロジェクトのフレームワーク＞

本プロジェクトでは、①パイロットサイトにおける農水産食品に係る検査能力の向上（成果1）、②農水産食品の安全性に係る国家モニタリングプログラムが改善（成果2）とともに、併せて、③農水産食品の安全性確保に係る人材育成に取り組む（成果3）としており、その結果、NAFIQAD を中心として、農水産食品の安全性を継続的に検査する体制の構築（プロジェクト目標）を図るものである。

（2）プロジェクト目標に至るまでの外部条件

1）活動開始のための前提条件

「プロジェクト実施に不可欠な関連機関の組織機構及び人材が確保される。」に関し、詳細計画策定調査において、関連する組織機構や人材配置状況も確認されており、本条件が満たされたものと判断される。

2）活動により成果を得るに至る外部条件

「研修を受講した人材が各配属先で引き続き従事し、また周囲の関係者にその技術、知識を移転する。」に関し、食品安全のための検査を担う人材をベトナム側は不可欠と考え、プロジェクトで実施した研修受講生をはじめとする人材の確保を保証するとしており、人材確保の方針が示されている。また本プロジェクトで OJT やエコートレーニングを実施することから、継続した助言やフォローを行う予定である。そのため、これら条件が満たされる可能性は極めて高いと判断される。

3）成果からプロジェクト目標達成に至る外部条件

「食品安全政策の方向性が変更されない」、「深刻な健康被害が発生しない」に関しては、詳細計画策定調査において、ベトナム政府の意向や現状は確認済みである。

4-3 効率性

以下の理由により、本プロジェクトの効率的は高いと見込まれる。

（1）研修計画や実施体制

今回、食品安全にかかる研修をまず本邦並びに OJT（短期専門家派遣による実地指導）で実施し、C/P に対して技術移転を行い、その結果、検査技術を習得した C/P がさらには指導技術を身につけることを想定している。まさにトレーナーの育成（TOT）をめざしたものであり、プロジェクト終了後もベトナム側で独自に人材育成を行えるよう、将来的な継続実施を可能とすべく配慮することで、より効率的で継続性の高い活動が可能である。

一方、関係機関の所在地がハノイ、ホーチミン、カントーと3都市に跨ることから、専門家並びに C/P による円滑で効率的な研修運営管理が求められる（専門家はオフィスの置かれるハノイに滞在予定であり、パイロットサイトはホーチミン、カントーの2都市に跨る）。

## (2) 効率的な事業実施

本プロジェクトでは長期専門家2名体制を計画しているが、併せて必要な短期専門家の投入、機材供与、並びに C/P 研修を組み込むことで、効率的な業務実施が可能である。

なお、本邦研修や機材供与については、プロジェクト活動の円滑な実施のため、研修受講生の早期決定や日本の研修受入体制、その後実施される OJT にかかる研修項目選定やベトナム側のラボ準備、一方、機材の搬入時期やその活用について、慎重かつ早急な対応が求められる。

## (3) パイロット機関におけるラボ移転計画

パイロットサイトとなる NAFIQAD 支所4並びに支所6では、ラボが手狭であることから、新たなラボの建設ないし移転計画を有しており、本プロジェクト、特に機材や人材配置への影響がないよう配慮するとともに、移転によって、より効率・効果発現につながることが期待される。

## (4) 他ドナーとの連携

現時点では連携が想定される活動は特にないが、ADB はベトナムを含む地域協力として SPS 強化に係るキャパシティ能力向上の協力（形態は借款及び無償、さらに相手国政府との協調融資）を行う予定である。2011～2012 年度ではまずはベトナム保健省を対象とした協力を行う予定だが、SPS センターの建物の建設をはじめ、将来の協力の状況に関して、その状況を把握し、必要な調整や連携（例えば、ADB が SPS センターを建設し、かつ機材等の設置を行う計画が具体化した場合、わが国は人材育成を本プロジェクトで担うとするものの、ベトナム側から要請のある無償による機材供与については協議、調整が求められる）を行い、重複を避け、相乗効果を得ることが期待される。また SPS 構想への支援にかかる他ドナーの動向を常に把握し、必要な調整、連携を図る必要がある。

## (5) その他

PDM にある指標や入手手段については、R/D 締結時あるいはプロジェクト開始時さらには中間時点で、再度、ベトナム側と協議し、その内容を見直し、確認することによって、プロジェクト活動に対する共通の理解を促進し、かつ的確なモニタリングを図る必要がある。

## 4-4 インパクト

この案件の正のインパクトは、以下のとおり見込まれる。

### (1) 上位目標に対するインパクト

上位目標である「農水産食品の安全性に係る国家モニタリングプログラムが拡充する。」を達成するには、本プロジェクトによって農水産食品の安全性を継続的に検査する体制が構築・強化されることに加え、外部条件として国家モニタリング検査実施のための予算が確保されることによって、NAFIQAD のみならず、PPD 及び DAH の検査機関でもモニタリングが的確に、かつ定期的に行われる必要がある。現在のベトナムの政治経済状況から、食品安全・衛生面にかかる政策が重視されることはあっても、大幅に転換する可能性は低く、既に食品安全法の制定、施行が行われるなど、食品の安全・衛生の状況が改善していく可能性は

高いと見込まれる。

また、プロジェクトの対象となるパイロットサイトに対する支援・指導による C/P の人材育成を通して、その技能やノウハウあるいは SOP などの手順の標準化が他の試験所（特に NAFIQAD の他支所及び PPD 及び DAH 等の各検査機関）にも適用されていくことによって、各検査機関レベルにおける農水産食品のモニタリング検査能力の底上げが見込まれる。

#### (2) 上位目標以外に予測されるインパクト

- ・ 食品の安全向上をめざし、国内生産食品の安全性確保を図る本件の試みは、ひいては輸出食品の安全性確保にも反映される可能性は高い。現在、ベトナムが抱えている輸出食品に対する信頼性が低下するリスクについても、その改善が期待される<sup>9</sup>。
- ・ 感染症や食中毒の原因となって、特に子どもや妊婦、老人といった弱者が健康被害を受ける危険性が高いなか、本件実施によって、より安全な食品の供給が行われることで危険性の低減が期待される。
- ・ WTO の加盟に伴い、ベトナムは「食品安全」に関して国際的基準とのハーモニゼーションを求められるようになってきていることから、本プロジェクトをとおして国内の食品規格基準が向上するとともに、安全性の高い農水産食品の輸出、とりわけベトナムから日本への野菜をはじめ農水産食品の輸出量の拡大が期待される。

### 4-5 自立発展性

以下の理由により、自立発展性は高いと見込まれる。

#### (1) 政策・財政支援

- ・ ベトナム政府は、現在、「第9次社会経済開発5カ年計画（2011～2015）」を草案中であり、国民の健康管理に係る食品衛生と安全の確保が引き続き盛り込まれている一方、食品安全法の制定、WTO/SPS 協定の履行促進を急務として、食品の安全性にかかる制度整備を進めており、食品検査にかかる体制の強化を打ち出している。特に日本を含む重要な輸出市場に対しては、二国間協定の順守とともに、食品安全に対する政策強化支援策を打ち出しており、この政策は継続されるものと見込まれる<sup>10</sup>。

#### (2) 技術面

NAFIQAD をはじめ、各局のスタッフは、長期間にわたり関連職位に従事する傾向が強く、プロジェクトによって育成された人材は、検査技術のみならず、指導技術を習得することで、プロジェクト終了後においても同一あるいは関連職位にとどまり、局内及び各管轄の地方省レベルなどに対して技術的支援、指導、監督などを行っていく可能性が高い。

#### (3) 組織・体制面

食品衛生検査及び検査結果の分析等、食品衛生モニタリング検査の中核拠点となる SPS セ

<sup>9</sup> 重要な輸出産業でもある農水産食品は、輸入国において食品衛生上の理由から輸入が拒否される事例や、国内においてはデルタ地域における野菜に起因したコレラの流行などの事例も散見され、その安全性が大きく揺らいでいる現状がある。

<sup>10</sup> 同5カ年計画のドラフトの p.47、84、89 にその記載あり。

ンターの新設計画に対するベトナム側の推進が期待されており、今後もベトナム政府によって食品安全にかかる研究・検査体制の強化や、同センターがリフェレンスセンターとしての機能を備え、かつ関連人材の育成に対する支援は継続されるものと見込まれる<sup>11</sup>。

NAFIQAD は元々水産品に特化した機関であったが組織改定のあと、農水産食品全般を扱う役割を担うことになっており、本プロジェクトでは特にまだ現状脆弱な農産品にかかる検査能力の向上を行う予定であることから、対象となる組織が、市場あるいは外国からの要求（流通や輸出にかかる規定や協定の順守）に従い、本プロジェクトによる成果を最大限に生かすことによって、プロジェクト終了後も組織全体が自立的に発展していく可能性は極めて高い。

---

<sup>11</sup> なお本プロジェクトは SPS センターの創設の遅滞で活動等に影響が及ばないように機材配置や活動内容に十分配慮している。



## 付 属 資 料

1. 詳細計画策定調査団議事録 (M/M)
2. プロジェクト実施に係る R/D 及び M/M (添付資料含む)





MINUTES OF MEETINGS  
BETWEEN THE DETAILED PLANNING SURVEY TEAM  
AND  
THE AUTHORITIES CONCERNED OF THE GOVERNMENT OF  
THE SOCIALIST REPUBLIC OF VIET NAM  
ON THE JAPANESE TECHNICAL COOPERATION  
FOR  
THE PROJECT FOR STRENGTHENING CAPACITY AND INSPECTION SYSTEM FOR  
ENSURING SAFETY OF AGRO-FISHERY FOODS

The Japan International Cooperation Agency (hereinafter referred to as "JICA") dispatched the Detailed Planning Survey Team (hereinafter referred to as "the Team"), headed by Dr. Mitsuhiro USHIO, Executive Technical Advisor to the Director General, Human Development Department, JICA, to the Socialist Republic of Viet Nam from July 24 to August 2, 2011 for the purpose of discussing the framework of the requested technical cooperation project entitled the Project for Strengthening Capacity and Inspection System for Ensuring Safety of Agro-Fishery Foods (hereinafter referred to as "the Project").

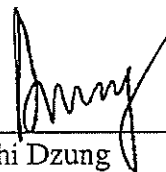
During its stay in Viet Nam, the Team exchanged views and had a series of discussions on the Project with the Viet Nam authorities concerned.

As a result of the discussions, both sides agreed upon the matters in the document attached hereto. This document is related to the Record of Discussions of the Project.


Ho Chi Minh City, 1 August 2011

牛尾 光宏

Dr. Mitsuhiro Ushio  
Team Leader  
Detailed Planning Survey Team  
Japan International Cooperation Agency



Ms. Hoang Thi Dzung  
Deputy Director General  
International Cooperation Department  
Ministry of Agriculture and Rural Development  
The Socialist Republic of Viet Nam



Dr. Nguyen Nhu Tiep  
Director General  
National Agro-Forestry-Fisheries Quality Assurance Department  
Ministry of Agriculture and Rural Development  
The Socialist Republic of Viet Nam

## **Attached Document**

### **1. PROJECT DESIGN MATRIX**

The Project Design Matrix (hereinafter referred to as “PDM”) was elaborated through discussion by JICA and the Vietnamese authorities concerned. Both sides agreed to recognize PDM as the implementation tool for project management, and the basis of monitoring and evaluation of the Project. The PDM will be utilized by both sides throughout the implementation of the Project. The PDM is shown in Annex I.

The PDM is subject to change within the framework of the Record of Discussions (hereinafter referred to as “R/D”) when necessity arises in the course of implementation of the Project by mutual consent. The R/D is shown in Annex II.

### **2. PLAN OF OPERATIONS**

The Plan of Operations (hereinafter referred to as “PO”) has been formulated according to the Record of Discussions, on condition that the necessary budget will be allocated for the implementation of the Project by both sides. The PO consists of a timetable, planned input of the Project. The schedule is subject to change within the scope of the Record of Discussions when necessity arises in the course of implementation of the Project. The PO is shown in Annex III.

### **3. MEASURES TO BE TAKEN FOR THE SMOOTH IMPLEMENTATION OF THE PROJECT**

- (1) For the smooth implementation of the project, both Vietnamese and Japanese side will elaborate to create common recognition and understanding at any occasions with mutual respect. The Japanese side recommended that the Director General of National Agro-Forestry-Fisheries Quality Assurance Department (hereinafter referred to as “NAFIQAD”) to be the project director who will be responsible for overall administration and implementation of the project.
- (2) Regarding the usage of the budget borne by JICA, Vietnamese side will strictly follow the regulation of JICA. Allowances for the staff of the counterpart organization will be strictly managed.
- (3) Both the Vietnamese and Japanese side will elaborate to follow the designated timeline for the smooth implementation of the project.
- (4) The Vietnamese authorities shall allocate necessary human resources and budget for the effective implementation of the Project.

### **4. THE IMPLEMENTATION STRUCTURE OF THE PROJECT**

- (1) The Joint Coordinating Committee shall be established in accordance with Annex VI of the Record of Discussions.
- (2) Both the Vietnamese and Japanese side has confirmed the implementation structure of the project as attached in Annex IV.

## 5. OTHER RELEVANT ISSUES FOR IMPLEMENTATION OF THE PROJECT

- (1) This Project is inline with the framework of SPS. However this project focuses on the capacity building for human resources on food safety. Therefore the establishment of SPS center shall be initiated by the Government of Vietnam.
- (2) This Project aims to establish continuous inspection system for ensuring safety of agro-fishery food. The basic concept of Food Hygiene Monitoring Program for Agro-Fishery Food which focuses on this Project is shown in Annex V.

## 6. OTHERS

- (1) Payment criteria for the project activities are to be developed in accordance with relevant regulations of the Government of Vietnam and JICA.
- (2) The documents submitted to the Japanese Experts should accompany English translation.

Annex I:	PDM
Annex II:	Draft R/D
Annex III:	PO
Annex IV:	Implementation Structure of the Project
Annex V:	Concept of Food Hygiene Monitoring Program for Agro-Fishery Foods

✍



**Project Design Matrix (PDM)**

The Project for Strengthening Capacity of Inspection System for Ensuring Safety of Agro-Fishery Foods

Target Country: Socialist Republic of Vietnam

Target Group: NAFIQAD, SPS Office, PPD, DAH of MARD

**ANNEX I**

Cooperation Period: 3 years

Pilot sites: NAFIQAD Branch 4, 6 and jurisdictional area

Version 0

Date: August 1, 2011

Narrative Summary	Objectively Verifiable Indicators	Means of Verification	Important Assumptions
<p><b>Overall Goal</b> The National Monitoring Program for food safety of agro-fishery foods is enhanced.</p>	<p>*The result of the National Monitoring Program is circulated and revised annually.</p>	<p>* Implementing plan and report by relevant organizations in NAFIQAD/MARD</p>	
<p><b>Project Purpose</b> The continuous inspection system for ensuring safety of agro-fishery foods is enhanced in NAFIQAD.</p>	<p>* Relevant Divisions and Centers of NAFIQAD which implement the National Monitoring Program are stipulated.  * Revised National Monitoring Program is conducted and the next year's implementing plan is formulated according to the prioritized component which derived from the results of evaluation.</p>	<p>* Organization chart of NAFIQAD  *The plan of National Monitoring Program</p>	<p>* Budgetary measures to introduce the national monitoring testing are secured.  *Within MARD, relevant laboratories and stakeholders perform their own role properly.</p>
<p><b>Outputs</b> 1 A testing capability of agro-fishery foods in NAFIQAD laboratories is strengthened.</p>	<p>1-1 Agro-foods as well as fishery food are tested in the selected pilot sites.  1-2 Number of test substances are increased to XXXX in the pilot sites. * Based on the current situation and market required, the target of number of test substances will be mutually determined at the early time of the Project implementation.</p>	<p>* Reports of short term expert * Standard Operational Procedures (SOPs) for testing  * Reports of short term expert * Standard Operational Procedures (SOPs) for testing</p>	<p>* The Government policy of ensuring food safety remain unchanged.  * No serious health hazards will not occur.</p>
<p>2 The National Monitoring Program for food safety of agro-fishery foods is improved.</p>	<p>1-3 Accredited various Standard Operational Procedures (SOPs) are formulated in NAFIQAD Branch 4, 6.  2-1 Database is set up for risk evaluation.</p>	<p>* Standard Operational Procedures (SOPs) for testing  * NAFIQAD reports (including National Monitoring Program, Database) * Standard Operational Procedures (SOPs) for testing</p>	
<p>3 Capacity of Government officers engaged in safety of agro-fishery foods are developed.</p>	<p>2-2 A publication forms of annual plan and result of the National Monitoring Program are stipulated.  3-1 At least 50 % of officers who received management training engage in management and improvement of the National Monitoring Program.</p>	<p>* A publication forms of annual plan * Reports of short term experts  * Organization chart of MARD * National Monitoring Program * Questionnaire &amp; interview records of ex-participants at the time on Project Final evaluation</p>	

<p>3-2 At least one personnel within C/Ps who received OJT become a trainer in each training subject, and conduct an echo training.</p>	<p>* Echo-training Reports by C/P * Questionnaire &amp; interview records of ex-participants at the time on Project Final evaluation</p>	<p>Personnel being trained by the Project continue to work at their organizations, and also intend to transfer acquired knowledge to other related persons.</p>
<p><b>Activities</b></p> <p>1-1 To conduct technical training (ex. Sampling, Testing, GLP) in Japan for officers in target group.</p> <p>1-2 To conduct training in NAFIQAD Branch 4 and 6 with advanced analytical methodologies.</p> <p>1-3 To conduct Good Laboratory Practice (GLP) training for officers of NAFIQAD based on Japanese experiences.</p> <p>1-4 To establish and/or revise Standard Operational Procedures (SOPs) for standardization of the analytical methods.</p> <p>2-1 To conduct management training for C/Ps in Japan.</p> <p>2-2 To select and categorize monitoring parameters and also organizational structure based on the results on the above training.</p> <p>2-3 To conduct a trial of the monitoring program for agro-fishery foods at pilot sites and to formulate an evaluation method of the database, based on the Activity 2-2.</p> <p>2-4 To formulate an assessment method of the database which are accumulated through the trial.</p> <p>3-1 To conduct OJT in pilot sites for C/Ps who participated training in Japan.</p> <p>3-2 To conduct an echo-training for technical experts in targeted laboratories through C/Ps who acquired advanced technology by OJT.</p>	<p><b>Inputs</b></p> <p>&lt;Japanese side&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>1. Human resource</li> <li>Dispatch of Long term expert <ul style="list-style-type: none"> <li>- Chief Advisor/Food Safety Policy(1)</li> <li>- Coordinator/ Training Planning(1)</li> </ul> </li> <li>Dispatch of Short term expert <ul style="list-style-type: none"> <li>- Pesticide residues</li> <li>- Veterinary drug residues</li> <li>- Heavy Metals</li> <li>- Aflatoxin</li> <li>- Microorganisms</li> <li>- GLP</li> </ul> </li> <li>- Sampling</li> <li>- Planning of Monitoring Program</li> <li>- Others (as required)</li> </ul> <p>2. Provision of Equipment</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>- LC/MC/MC</li> <li>- GC/MS/MS</li> <li>- ICP-MS or ICP-OES</li> </ul> <p>* Others which are indispensable for strengthening of test system</p> <p>* Inputs of equipment is subject to change due to budgetary conditions of Japanese side.</p> <p>3. C/P Training</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>- Food administration/Planning of monitoring program</li> <li>- Pesticide residues</li> <li>- Veterinary drug residues</li> <li>- Others</li> </ul> <p>4. Local cost</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>- Expenses for workshop, meeting, etc.</li> </ul>	<p>&lt;Vietnamese side&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>1. Human resource</li> <li>Assignment of C/P Personnel <ul style="list-style-type: none"> <li>- Project Director</li> <li>- Project Vice Director</li> </ul> </li> <li>- C/Ps in SPS Office, NAFIQAD HQ, NAFIQAD Branch4 and 6, PPD, DAH</li> </ul> <p>2.Provision of Office Space and Training space</p> <p>3. Equipment</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>- Using existent equipment</li> <li>- Reagents for testing and consumables</li> <li>- Regular check with calibration by supplier &amp; relevant authorities</li> </ul> <p>4. Allocation of C/P Budget</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>- Expenses for training in Vietnam for NAFIQAD Branch4 and 6</li> <li>- Maintenance for equipment</li> </ul>
<p><b>Pre-conditions</b></p> <p>In order to start the Project, stable structure and human resources of related agencies are secured.</p>		

**RECORD OF DISCUSSIONS**  
**BETWEEN JAPAN INTERNATIONAL COOPERATION AGENCY**  
**AND**  
**THE AUTHORITIES CONCERNED OF THE GOVERNMENT**  
**OF THE SOCIALIST REPUBLIC OF VIETNAM**  
**ON THE JAPANESE TECHNICAL COOPERATION**  
**FOR**  
**THE PROJECT FOR**  
**STRENGTHENING CAPACITY AND INSPECTION SYSTEM FOR ENSURING SAFETY OF**  
**AGRO FISHERY FOODS**  
(Draft)

In response to the request of the Government of the Socialist Republic of Vietnam, the Government of Japan has decided to implement Japan – Vietnam Technical Cooperation Project entitled the Project for Strengthening Capacity and Inspection System for Ensuring Safety of Agro-Fishery Foods (hereinafter referred to as “the Project”) in accordance with the provisions of the Agreement on Technical Cooperation between the Government of Japan and the Government of the Socialist Republic of Vietnam, signed on October 20, 1998 (hereinafter referred to as “the Agreement”) and the Embassy of Japan’s Note No.J.D.42/2011 dated 29<sup>th</sup> April, 2011 and the Ministry of Planning and Investment’s Note No.2923 /BKHDT-KTDN dated 12<sup>nd</sup> May, 2011.

Accordingly, the Japan International Cooperation Agency (hereinafter referred to as “JICA”), the official agency responsible for the implementation of the technical cooperation project of the Government of Japan, will cooperate with the authorities concerned of the Government of the Socialist Republic of Vietnam in implementing the Project.

JICA and the authorities concerned of the Government of the Socialist Republic of Vietnam had a series of discussions on the framework of the Project. As a result of the discussions, JICA and the authorities concerned agreed on the matters referred to in the document attached hereto.

Hanoi, \_\_\_\_\_, 2011

---

Mr. Motonori Tsuno  
Chief Representative  
JICA Vietnam Office  
Japan International Cooperation  
Agency

---

International Cooperation Department  
Ministry of Agriculture and Rural  
Development

---

Dr. Nguyen Nhu Tiep  
Director General  
National Agro-Forestry Fisheries  
Quality Assurance Department  
Ministry of Agriculture and Rural  
Development

---

Foreign Economic Relations Department  
Ministry of Planning and Investment

4





## THE ATTACHED DOCUMENT

### I. COOPERATION BETWEEN JICA AND THE GOVERNMENT OF THE SOCIALIST REPUBLIC OF VIETNAM

1. The Government of the Socialist Republic of Vietnam will implement the Strengthening Capacity and Inspection System for Ensuring Safety of Agro-Fishery Foods Project (hereinafter referred to as "the Project") in cooperation with JICA.
2. The Project will be implemented in accordance with the Master Plan which is given in Annex I.

### II. MEASURES TO BE TAKEN BY JICA

In accordance with the laws and regulations in force in Japan and the provisions of Article III of the Agreement, JICA, as the executing agency for technical cooperation by the Government of JAPAN, will take, at its own expense, the following measures according to the normal procedures of its technical cooperation scheme.

#### 1. DISPATCH OF JAPANESE EXPERTS

JICA will provide the services of the Japanese experts as listed in Annex II. The provision of Article III of the Agreement will be applied to the above-mentioned experts.

#### 2. PROVISION OF MACHINERY AND EQUIPMENT

JICA will provide such machinery, equipment and other materials (hereinafter referred to as "the Equipment") necessary for the implementation of the Project as listed in Annex III. The provision of Article III of the Agreement will be applied to the Equipment.

#### 3. TRAINING OF VIETNAMESE PERSONNEL IN JAPAN

JICA will receive the Vietnamese personnel connected with the Project for technical training in Japan.

f



### III. MEASURES TO BE TAKEN BY THE GOVERNMENT OF THE SOCIALIST REPUBLIC OF VIETNAM

1. The Government of the Socialist Republic of Vietnam will take necessary measures to ensure that the self-reliant operation of the Project will be sustained during and after the period of Japanese technical cooperation, through full and active involvement in the Project by all related authorities, beneficiary groups and institutions.
2. The Government of the Socialist Republic of Vietnam will ensure that the technologies and knowledge acquired by the Vietnamese nationals as a result of the Japanese technical cooperation will contribute to the economic and social development of the Socialist Republic of Vietnam.
3. In accordance with the provisions of Article VI of the Agreement, the Government of the Socialist Republic of Vietnam will grant in the Socialist Republic of Vietnam privileges, exemptions and benefits to the Japanese experts referred to in II-1 above and their families.
4. In accordance with the provisions of Article VIII of the Agreement, the Government of the Socialist Republic of Vietnam will take the measures necessary to receive and use the Equipment provided by JICA under II-2 above and equipment, machinery and materials carried in by the Japanese experts referred to in II-1 above.
5. The Government the Socialist Republic of Vietnam will take necessary measures to ensure that the knowledge and experience acquired by the Vietnamese personnel from technical training in Japan will be utilized effectively in the implementation of the Project.
6. In accordance with the provision of Article V-(b) of the Agreement, the Government of the Socialist Republic of Vietnam will provide the services of Vietnamese counterpart personnel (hereinafter referred to as "C/P") and administrative personnel as listed in Annex IV.
7. In accordance with the provision of Article V-(a) of the Agreement, the

§



Government of the Socialist Republic of Vietnam will provide the buildings and facilities as listed in Annex V.

8. In accordance with the laws and regulations in force in the Socialist Republic of Vietnam, the Government of the Socialist Republic of Vietnam will take necessary measures to supply or replace at its own expense machinery, equipment, instruments, vehicles, tools, spare parts and any other materials necessary for the implementation of the Project other than the Equipment provided by JICA under II-2 above.
9. In accordance with the laws and regulations in force in the Socialist Republic of Vietnam, the Government of the Socialist Republic of Vietnam will take necessary measures to meet the running expenses necessary for the implementation of the Project.

#### IV. ADMINISTRATION OF THE PROJECT

1. Director General of National Agro-Forestry-Fisheries Quality Assurance Department (hereinafter referred to as "NAFIQAD") as the Project Director, will bear overall responsibility for the administration and implementation of the Project.
2. Deputy Director General of NAFIQAD as the Project Vice Director, will be responsible for the managerial and technical matters of the Project.
3. Director General of ICD/ Director of SPS office as the Project coordinator will be responsible for the Project coordination and dialogue with Japanese experts.
4. The Japanese Team Leader will provide necessary recommendations and advice to the Project Director and the Project Vice Director on any matters pertaining to the implementation of the Project.
5. The Japanese experts will give necessary technical guidance and advice to Vietnamese C/P on technical matters pertaining to the implementation of the Project.

6. For the effective and successful implementation of technical cooperation for the Project, a Joint Coordinating Committee will be established whose functions and composition are described in Annex VI.

## V. JOINT EVALUATION

Evaluation of the Project will be conducted jointly by JICA and the Vietnamese authorities concerned, at the middle and during the last six months of the cooperation term in order to examine the level of achievement.

## VI. CLAIMS AGAINST JAPANESE EXPERTS

In accordance with the provision of Article VII of the Agreement, the Government of the Socialist Republic of Vietnam undertakes to bear claims, if any arises, against the Japanese experts engaged in technical cooperation for the Project resulting from, occurring in the course of, or otherwise connected with the discharge of their official functions in the Socialist Republic of Vietnam except for those arising from the willful misconduct or gross negligence of the Japanese experts.

## VII. MUTUAL CONSULTATION

There will be mutual consultation between JICA and Vietnamese Government on any major issues arising from, or in connection with this Attached Document.

## VIII. MEASURES TO PROMOTE UNDERSTANDING OF AND SUPPORT FOR THE PROJECT

For the purpose of promoting support for the Project among the people of the Socialist Republic of Vietnam, the Government of the Socialist Republic of Vietnam will take appropriate measures to make the Project widely known to the people of the Socialist Republic of Vietnam.

✱

## IX. TERM OF COOPERATION

The duration of the technical cooperation for the Project under this Attached Document will be three (3) years from the date of the first dispatch of the Japanese expert(Project Coordinator/Training Planning). The date of the first dispatch of the Japanese expert(s) will be informed later on.

- ANNEX I     MASTER PLAN
- ANNEX II    LIST OF JAPANESE EXPERTS
- ANNEX III   LIST OF MACHINERY AND EQUIPMENT
- ANNEX IV    LIST OF VIETNAMESE COUNTERPART AND ADMINISTRATIVE  
PERSONNEL
- ANNEX V     LIST OF BUILDINGS AND FACILITIES
- ANNEX VI    JOINT COORDINATING COMMITTEE

## ANNEX I: MASTER PLAN

### 【Overall Goal】

The National Monitoring Program for food safety of agro-fishery foods is enhanced.

### 【Project Purpose】

The continuous inspection system for ensuring safety of agro-fishery foods is enhanced in NAFIQAD.

### 【Outputs】

1. A testing capability of agro-fishery foods in NAFIQAD laboratories is strengthened.
2. The National Monitoring Program for food safety of agro-fishery foods is improved.
3. Capacity of Government officers engaged in safety of agro-fishery foods are developed.

### 【Activities】

#### Output 1:

- 1.1 To conduct technical training (ex. Sampling, Testing, GLP) in Japan for officers in target group.
- 1.2 To conduct training in NAFIQAD Branch 4 and 6 with advanced analytical methodologies.
- 1.3 To conduct Good Laboratory Practice (GLP) training for officers of NAFIQAD based on Japanese experiences.
- 1.4 To establish and/or revise Standard Operational Procedures (SOPs) for standardization of the analytical methods.

#### Output 2:

- 2.1 To conduct management training for C/Ps in Japan.
- 2.2 To select and categorize monitoring parameters and also organizational structure based on the results on the above training..
- 2.3 To conduct a trial of the monitoring program for agro-fishery foods at pilot sites and to formulate an evaluation method of the database, based on the Activity2-2.
- 2.4 To formulate an assessment method of the database which are accumulated through the trial.

\$

Output 3:

- 3.1 To conduct OJT in pilot sites for C/Ps who participated training in Japan.
- 3.2 To conduct an echo-training for technical experts in targeted laboratories through C/Ps who acquired advanced technology by OJT.

↑





## ANNEX II: LIST OF JAPANESE EXPERTS

### 1. Long term experts

- 1.1 Chief Advisor/Food Safety Policy
- 1.2 Coordinator/Training Planning

### 2. Short term experts

- 2.1 Pesticide residues
- 2.2 Veterinary drug residues
- 2.3 Heavy Metals
- 2.4 Aflatoxin
- 2.5 Microorganisms
- 2.6 GLP
- 2.7 Sampling
- 2.8 Planning of monitoring program
- 2.9 Others (as required)

## ANNEX III: LIST OF MACHINERY AND EQUIPMENT

1. LC/MS/MS
2. GC/MS/MS
3. ICP-MS or ICP-OES
4. Others which are indispensable for strengthening of test system

Note: Input of equipment are subject to change due to budgetary conditions of Japanese side.

4



ANNEX IV: LIST OF VIETNAMESE COUNTERPART AND ADMINISTRATIVE PERSONNEL

1. Project Director is Director General of National Agro-Forestry-Fisheries Quality Assurance Department (hereinafter referred to as "NAFIQAD").
2. Project Vice Director is Deputy Director General of NAFIQAD.
3. Project coordinator is Director General of ICD/ Director of SPS office.
4. C/Ps assign in SPS Office, NAFIQAD HQ, NAFIQAD Branch 4 and 6, PPD, DAH.
5. Others will be decided later.

⤴



## ANNEX V : LIST OF BUILDINGS AND FACILITIES

1. Offices space and basic facilities for the JICA experts
2. Other facilities mutually agreed upon as necessary for the implementation of the Project

4



## ANNEX VI: JOINT COORDINATING COMMITTEE

### 1. Functions

The Joint Coordination Committee shall

- (1) Formulate an annual work plan for the Project based on the Plan of Operations within the framework of this Record of Discussion.
- (2) Monitor and evaluate the progress of the Project and the results of the annual work plan.
- (3) Discuss and advise major issues that arise during the implementation period of the Project.
- (4) Carry out other interventions as needed during the project period.

### 2. Composition

The Joint Coordinating Committee will be composed of the following members:

(1) Chairperson: Vice Minister of MARD

(2) Members

\* Vietnamese side

- Director General, International Cooperation Department, MARD
- Director of SPS office, International Cooperation Department, MARD
- Director General of NAFIQAD, MARD
- Director of NAFIQAD Branch 4, 6
- Director General, PPD and DAH, MARD
- Representative of MPI

\* Japanese side

- Chief Advisor/Food Safety Policy
- Representative of JICA Vietnam Office

\* Observer

\$

- Representative of the Embassy of Japan
- Representative of Ministry of Health
- Representative of Ministry of Industry and Trade
- Representative of Ministry of Science and Technology
- Other personnel invited by the Chairperson

*Note: Chairperson of the Joint Coordinating Committee can invite any relevant person to discuss specific issues. The Joint Coordination Committee will meet at least once a year and whenever necessity arise.*

4



The Project for Strengthening Capacity of Inspection System for Ensuring Safety of Agro-Fishery Foods

Version 0

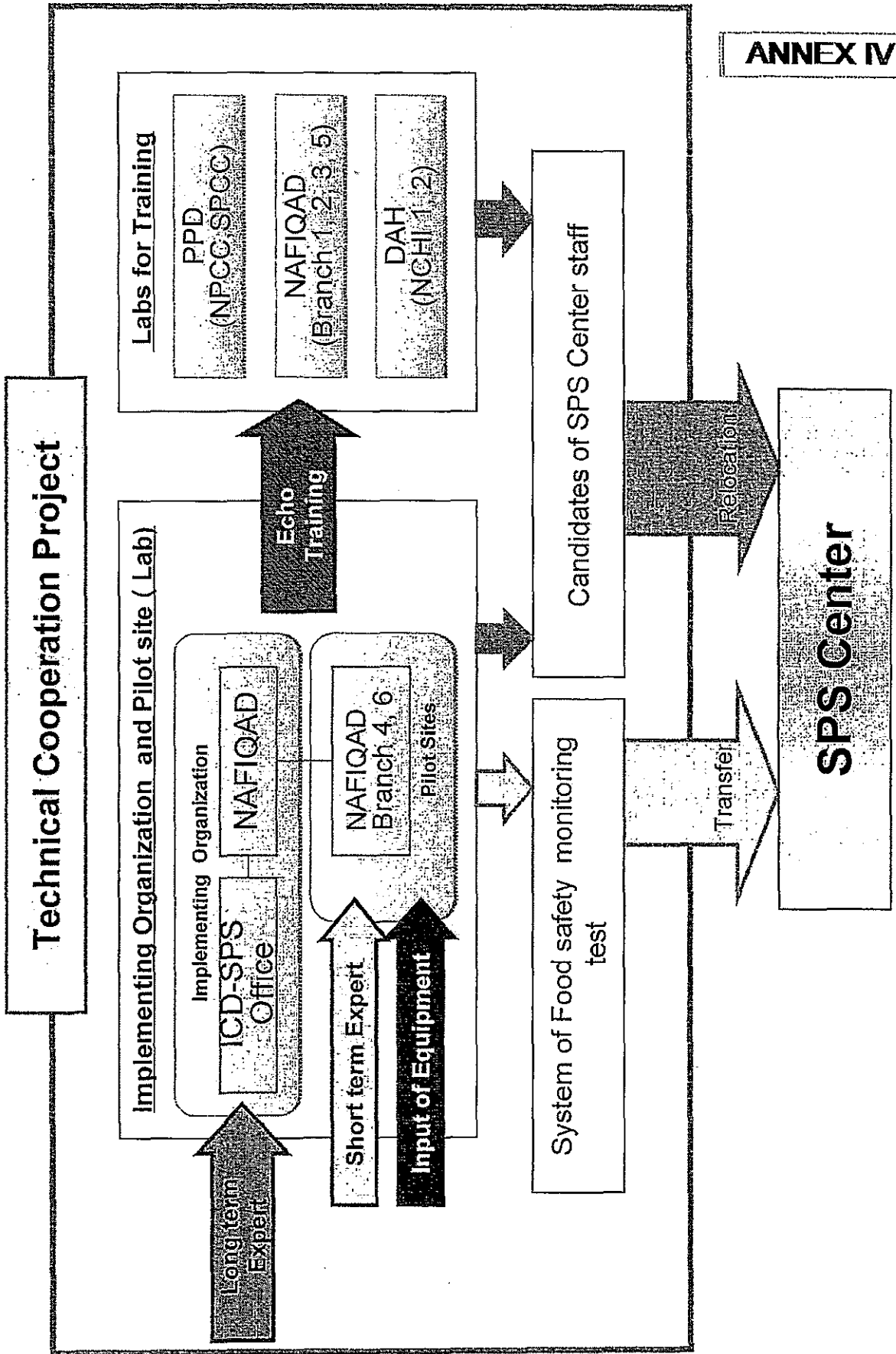
Date: August 1, 2011

	1st year				2nd year				3rd year				Attainable goal	Responsible person	Input		
	I	II	III	IV	I	II	III	IV	I	II	III	IV			Vietnamese side	Japanese side	
Output 1 A testing capability of agro-fishery foods in NAFIQAD laboratories is strengthened.																	
Activity 1-1 To conduct technical training (ex. Sampling, Testing, GLP) in Japan for officers in target group.														* ICD: SPS Office, NAFIQAD HQ	C/Ps	Training for C/Ps by Japanese Experts	
Activity 1-2 To conduct training in NAFIQAD Branch 4 and 6 with advanced analytical methodologies.														C/Ps, Training Space, Existing Equipment	C/P Training, S-Experts, Provision of Equipment		
Activity 1-3 To conduct Good Laboratory Practice (GLP) training for officers of NAFIQAD based on Japanese experiences.														C/Ps, Training Space	C/P Training, S-Experts		
Activity 1-4 To establish and/or revise Standard Operational Procedures (SOPs) for standardization of the analytical methods.														NAFIQAD Branch 4,6	L-Experts		
Output 2 The National Monitoring Program for food safety of agro-fishery foods is improved.																	
Activity 2-1 To conduct management training for C/Ps in Japan.														* ICD: SPS Office, NAFIQAD HQ	C/Ps	Training for C/Ps by Japanese Officials	
Activity 2-2 To select and categorize monitoring parameters and also organizational structure based on the results on the above training.															C/Ps	C/P Training/ S-Experts	
Activity 2-3 To conduct a trial of the monitoring program for agro fishery foods at pilot sites and to formulate an evaluation method of the database, based on the Activity 2-2.														* NAFIQAD HQ	C/Ps	C/P Training, S, L-Experts Cost for Test trial	
Activity 2-4 To formulate an assessment method of the database which are accumulated through the trial.															C/Ps	S, L-Experts Cost for Test trial	

Output 3 Capacity of Government officers engaged in safety of agro-fishery foods are developed.						
Activity 3-1 To conduct OJT in pilot sites for C/Ps who participated training in Japan.			* Upgrading practical skills through OJT instructed by S-Experts.			C/P Training/ S-Experts
Activity 3-2 To conduct an echo-training for technical experts in targeted laboratories through C/Ps who acquired advanced technology by OJT.			* At least 1 personnel within C/Ps who received OJT become a trainer in each training subject, and conduct an echo-training.	*ICD: SPS Office, NAT/QAD HQ	C/Ps Echo training, Training Space	S, L-Experts
Other Activity To conduct workshop and seminar in order to improve technical skills to ensure food safety.			* Through the workshop/seminar, the participants from relevant governmental organizations gain understanding on food safety.	*ICD: SPS Office, NAT/QAD HQ	C/Ps	S, L-Experts



# Implementation Structure of the Project

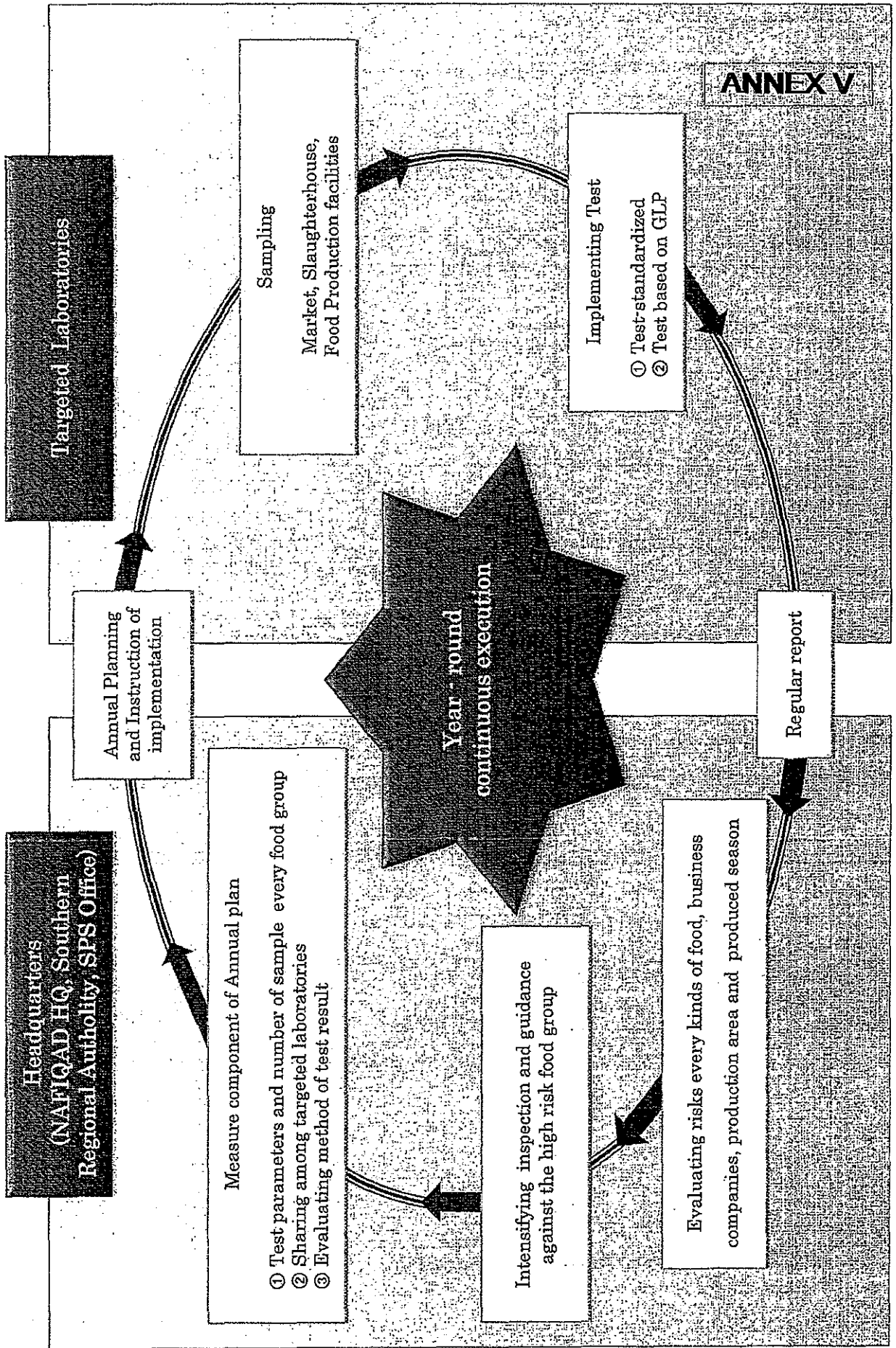


ANNEX IV

8

*[Handwritten signature]*

# Concept of Food Hygiene Monitoring Program for Agro-Fishery Foods



**RECORD OF DISCUSSIONS**  
**BETWEEN JAPAN INTERNATIONAL COOPERATION AGENCY**  
**AND**  
**THE AUTHORITIES CONCERNED OF THE GOVERNMENT**  
**OF THE SOCIALIST REPUBLIC OF VIETNAM**  
**ON THE JAPANESE TECHNICAL COOPERATION**  
**FOR**  
**THE PROJECT FOR**  
**STRENGTHENING CAPACITY AND INSPECTION SYSTEM FOR ENSURING SAFETY OF**  
**AGRO-FISHERY FOODS**

In response to the request of the Government of the Socialist Republic of Vietnam, the Government of Japan has decided to implement Japan – Vietnam Technical Cooperation Project entitled the Project for Strengthening Capacity and Inspection System for Ensuring Safety of Agro-Fishery Foods (hereinafter referred to as “the Project”) in accordance with the provisions of the Agreement on Technical Cooperation between the Government of Japan and the Government of the Socialist Republic of Vietnam, signed on October 20th, 1998 (hereinafter referred to as “the Agreement”) and the Embassy of Japan’s Note No.J.D.42/2011 dated 29<sup>th</sup> April, 2011 and the Ministry of Planning and Investment’s Note No.2923 /BKHDT-KTDN dated 12th May, 2011.

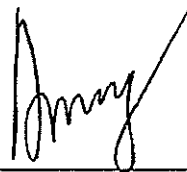
Accordingly, the Japan International Cooperation Agency (hereinafter referred to as “JICA”), the official agency responsible for the implementation of the technical cooperation project of the Government of Japan, will cooperate with the authorities concerned of the Government of the Socialist Republic of Vietnam in implementing the Project.

JICA and the authorities concerned of the Government of the Socialist Republic of Vietnam had a series of discussions on the framework of the Project. As a result of the discussions, JICA and the authorities concerned agreed on the matters referred to in the document attached hereto.

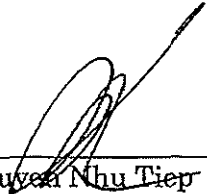
Hanoi, November 8, 2011



Mr. Motonori Tsuno  
Chief Representative  
Vietnam Office  
Japan International Cooperation  
Agency



Ms. Hoang Thi Dzung  
Deputy Director General  
International Cooperation Department  
Ministry of Agriculture and Rural  
Development  
The Socialist Republic of Viet Nam



---

Dr. Nguyen Nhu Tien  
Director General  
National Agro-Forestry-Fisheries  
Quality Assurance Department  
Ministry of Agriculture and Rural  
Development  
The Socialist Republic of Viet Nam

---

Mr. Nguyen Xuan Tien  
Deputy Director General  
Foreign Economic Relations Department  
Ministry of Planning and Investment  
The Socialist Republic of Viet Nam

## THE ATTACHED DOCUMENT

### I. COOPERATION BETWEEN JICA AND THE GOVERNMENT OF THE SOCIALIST REPUBLIC OF VIETNAM

1. The Government of the Socialist Republic of Vietnam will implement the Project for Strengthening Capacity and Inspection System for Ensuring Safety of Agro-Fishery Foods (hereinafter referred to as "the Project") in cooperation with JICA.
2. The Project will be implemented in accordance with the Master Plan which is given in Annex I.

### II. MEASURES TO BE TAKEN BY JICA

In accordance with the laws and regulations in force in Japan and the provisions of Article III of the Agreement, JICA, as the executing agency for technical cooperation by the Government of JAPAN, will take, at its own expense, the following measures according to the normal procedures of its technical cooperation scheme.

#### 1. DISPATCH OF JAPANESE EXPERTS

JICA will provide the services of the Japanese experts as listed in Annex II. The provision of Article III of the Agreement will be applied to the above-mentioned experts.

#### 2. PROVISION OF MACHINERY AND EQUIPMENT

JICA will provide such machinery, equipment and other materials (hereinafter referred to as "the Equipment") necessary for the implementation of the Project as listed in Annex III. The provision of Article III of the Agreement will be applied to the Equipment.

#### 3. TRAINING OF VIETNAMESE PERSONNEL IN JAPAN

JICA will receive the Vietnamese personnel connected with the Project for technical training in Japan.



### III. MEASURES TO BE TAKEN BY THE GOVERNMENT OF THE SOCIALIST REPUBLIC OF VIETNAM

1. The Government of the Socialist Republic of Vietnam will take necessary measures to ensure that the self-reliant operation of the Project will be sustained during and after the period of Japanese technical cooperation, through full and active involvement in the Project by all related authorities, beneficiary groups and institutions.
2. The Government of the Socialist Republic of Vietnam will ensure that the technologies and knowledge acquired by the Vietnamese nationals as a result of the Japanese technical cooperation will contribute to the economic and social development of the Socialist Republic of Vietnam.
3. In accordance with the provisions of Article VI of the Agreement, the Government of the Socialist Republic of Vietnam will grant in the Socialist Republic of Vietnam privileges, exemptions and benefits to the Japanese experts referred to in II-1 above and their families.
4. In accordance with the provisions of Article VIII of the Agreement, the Government of the Socialist Republic of Vietnam will take the measures necessary to receive and use the Equipment provided by JICA under II-2 above and equipment, machinery and materials carried in by the Japanese experts referred to in II-1 above.
5. The Government the Socialist Republic of Vietnam will take necessary measures to ensure that the knowledge and experience acquired by the Vietnamese personnel from technical training in Japan will be utilized effectively in the implementation of the Project.
6. In accordance with the provision of Article V-(b) of the Agreement, the Government of the Socialist Republic of Vietnam will provide the services of Vietnamese counterpart personnel (hereinafter referred to as "C/P") and administrative personnel as listed in Annex IV.
7. In accordance with the provision of Article V-(a) of the Agreement, the

*RS*

Government of the Socialist Republic of Vietnam will provide the buildings and facilities as listed in Annex V.

8. In accordance with the laws and regulations in force in the Socialist Republic of Vietnam, the Government of the Socialist Republic of Vietnam will take necessary measures to supply or replace at its own expense machinery, equipment, instruments, vehicles, tools, spare parts and any other materials necessary for the implementation of the Project other than the Equipment provided by JICA under II-2 above.
9. In accordance with the laws and regulations in force in the Socialist Republic of Vietnam, the Government of the Socialist Republic of Vietnam will take necessary measures to meet the running expenses necessary for the implementation of the Project.

#### IV. ADMINISTRATION OF THE PROJECT

1. Director General of National Agro-Forestry-Fisheries Quality Assurance Department (hereinafter referred to as "NAFIQAD") as the Project Director, will bear overall responsibility for the administration and implementation of the Project.
2. Deputy Director General of NAFIQAD as the Project Vice Director, will be responsible for the managerial and technical matters of the Project.
3. Director General of ICD/ Director of SPS office as the Project Coordinator will be responsible for the Project coordination and dialogue with Japanese experts.
4. The Japanese Chief Advisor will provide necessary recommendations and advice to the Project Director, the Project Vice Director, and the Project Coordinator on any matters pertaining to the implementation of the Project.
5. The Japanese experts will give necessary technical guidance and advice to Vietnamese C/P on technical matters pertaining to the implementation of the Project.



6. For the effective and successful implementation of technical cooperation for the Project, a Joint Coordinating Committee will be established whose functions and composition are described in Annex VI.

## V. JOINT EVALUATION

Evaluation of the Project will be conducted jointly by JICA and the Vietnamese authorities concerned, at the middle and during the last six months of the cooperation term in order to examine the level of achievement.

## VI. CLAIMS AGAINST JAPANESE EXPERTS

In accordance with the provision of Article VII of the Agreement, the Government of the Socialist Republic of Vietnam undertakes to bear claims, if any arises, against the Japanese experts engaged in technical cooperation for the Project resulting from, occurring in the course of, or otherwise connected with the discharge of their official functions in the Socialist Republic of Vietnam except for those arising from the willful misconduct or gross negligence of the Japanese experts.

## VII. MUTUAL CONSULTATION

There will be mutual consultation between JICA and the Government of the Socialist Republic of Vietnam on any major issues arising from, or in connection with this Attached Document.

## VIII. MEASURES TO PROMOTE UNDERSTANDING OF AND SUPPORT FOR THE PROJECT

For the purpose of promoting support for the Project among the people of the Socialist Republic of Vietnam, the Government of the Socialist Republic of Vietnam will take appropriate measures to make the Project widely known to the people of the Socialist Republic of Vietnam.





## IX. TERM OF COOPERATION

The duration of the technical cooperation for the Project under this Attached Document will be three (3) years from the date of the first dispatch of the Japanese expert (Chief Advisor). The date of the first dispatch of the Japanese expert(s) will be informed later on.

- ANNEX I    MASTER PLAN
- ANNEX II    LIST OF JAPANESE EXPERTS
- ANNEX III    LIST OF MACHINERY AND EQUIPMENT
- ANNEX IV    LIST OF VIETNAMESE COUNTERPART AND ADMINISTRATIVE  
PERSONNEL
- ANNEX V    LIST OF BUILDINGS AND FACILITIES
- ANNEX VI    JOINT COORDINATING COMMITTEE



## **ANNEX I: MASTER PLAN**

### **【Overall Goal】**

Contribute to improve food safety of agro-fishery foods by the enhanced National Monitoring Program.

### **【Project Purpose】**

The continuous inspection system for ensuring safety of agro-fishery foods is enhanced in NAFIQAD.

### **【Outputs】**

1. A testing capability of agro-fishery foods in NAFIQAD laboratories is strengthened.
2. The National Monitoring Program for food safety of agro-fishery foods is improved.
3. Capacity of Government officers engaged in safety of agro-fishery foods are developed.

### **【Activities】**

#### **Output 1:**

- 1.1 To conduct technical training (ex. Sampling, Testing, GLP) in Japan for officers in target group.
- 1.2 To conduct training in NAFIQAD Branch 4 and 6 with advanced analytical methodologies.
- 1.3 To conduct Good Laboratory Practice (GLP) training for officers of NAFIQAD based on Japanese experiences.
- 1.4 To establish and/or revise Standard Operational Procedures (SOPs) for standardization of the analytical methods.

#### **Output 2:**

- 2.1 To conduct management training for C/Ps in Japan.
- 2.2 To select and categorize monitoring parameters and also organizational structure based on the results on the above training.
- 2.3 To conduct a trial of the monitoring program for agro-fishery foods at pilot sites and to formulate an evaluation method of the database, based on the Activity 2.2.
- 2.4 To formulate an assessment method of the database which are accumulated through the trial.

#### **Output 3:**

- 3.1 To conduct On the job training (OJT) in pilot sites for C/Ps who participated training in Japan.

3.2 To conduct an echo-training for technical experts in targeted laboratories through C/Ps who acquired advanced technology by OJT.

*gf*

## ANNEX II: LIST OF JAPANESE EXPERTS

1. Long term experts
  - 1.1 Chief Advisor/Food Safety Policy
  - 1.2 Coordinator/Training Planning
  
2. Short term experts
  - 2.1 Pesticide residues
  - 2.2 Veterinary drug residues
  - 2.3 Heavy Metals
  - 2.4 Aflatoxin
  - 2.5 Microorganisms
  - 2.6 GLP
  - 2.7 Sampling
  - 2.8 Planning of monitoring program
  - 2.9 Others (as required)

*28*

### ANNEX III: LIST OF MACHINERY AND EQUIPMENT

1. Liquid Chroma-tography / Mass Spectrometry / Mass Spectrometry (LC/MS/MS)
2. Gas Chroma-tography / Mass Spectrometry / Mass Spectrometry (GC/MS/MS)
3. Inductively Coupled Plasma Mass Spectrometry(ICP-MS) or Inductively Coupled Plasma Optical Emission Spectrometer (ICP-OES)
4. Others which are indispensable for strengthening of test system

Note: Input of equipment are subject to change due to budgetary conditions of Japanese side.



ANNEX IV: LIST OF VIETNAMESE COUNTERPART AND ADMINISTRATIVE PERSONNEL

1. Project Director is Director General of National Agro-Forestry-Fisheries Quality Assurance Department (hereinafter referred to as “NAFIQAD”).
2. Project Vice Director is Deputy Director General of NAFIQAD.
3. Project Coordinator is Director General of ICD/ Director of SPS office.
4. C/Ps assigned in SPS Office, NAFIQAD HQ, NAFIQAD Branch4 and 6, PPD, DAH.
5. Others will be decided later.



**ANNEX V : LIST OF BUILDINGS AND FACILITIES**

1. Offices space and basic facilities for the JICA experts in NAFIQAD HQ,  
NAFIQAD Branch4 and 6
2. Other facilities mutually agreed upon as necessary for the implementation of  
the Project



## ANNEX VI: JOINT COORDINATING COMMITTEE

### 1. Functions

The Joint Coordination Committee shall

- (1) Formulate an annual work plan for the Project based on the Plan of Operations within the framework of this Record of Discussions.
- (2) Monitor and evaluate the progress of the Project and the results of the annual work plan.
- (3) Discuss and advise major issues that arise during the implementation period of the Project.
- (4) Carry out other interventions as needed during the project period.

### 2. Composition

The Joint Coordinating Committee will be composed of the following members:

(1) Chairperson: Vice Minister of MARD

(2) Members

\* Vietnamese side

- Director General, International Cooperation Department, MARD
- Director General of NAFIQAD, MARD
- Director of SPS office, International Cooperation Department, MARD
- Director of NAFIQAD Branch 4, 6
- Director General, PPD and DAH, MARD
- Representative of MPI

\* Japanese side

- Chief Advisor/Food Safety Policy
- Representative of JICA Vietnam Office

\* Observers





- Representative of the Embassy of Japan
- Representative of Ministry of Health
- Representative of Ministry of Industry and Trade
- Representative of Ministry of Science and Technology
- Other personnel invited by the Chairperson

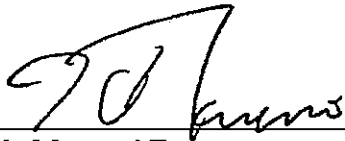
*Note: Chairperson of the Joint Coordinating Committee can invite any relevant person to discuss specific issues. The Joint Coordination Committee will meet at least once a year and whenever necessity arise.*

**MINUTES OF MEETINGS**  
**BETWEEN JAPAN INTERNATIONAL COOPERATION AGENCY**  
**AND**  
**THE AUTHORITIES CONCERNED OF THE GOVERNMENT**  
**OF THE SOCIALIST REPUBLIC OF VIETNAM**  
**ON THE JAPANESE TECHNICAL COOPERATION**  
**FOR**  
**THE PROJECT FOR STRENGTHENING CAPACITY AND INSPECTION SYSTEM FOR**  
**ENSURING SAFETY OF AGRO-FISHERY FOODS**

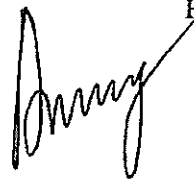
The Japan International Cooperation Agency (hereinafter referred to as “JICA”) and authorities concerned of the Government of the Socialist Republic of Vietnam (hereinafter referred to as “Vietnamese side”) had a series of meetings for the purpose of working out the details of the Technical Cooperation Project for Strengthening Capacity and Inspection System for Ensuring Safety of Agro-Fishery Foods (hereinafter referred to as “the Project”).

As a result of the discussions, both sides agreed upon the matters in the document attached hereto. This document is related to the Record of Discussions of the Project.

Hanoi, November 8, 2011



Mr. Motonori Tsuno  
Chief Representative  
Vietnam Office  
Japan International Cooperation Agency



Ms. Hoang Thi Dzung  
Deputy Director General  
International Cooperation Department  
Ministry of Agriculture and Rural Development  
The Socialist Republic of Viet Nam



Dr. Nguyen Nhu Tiep  
Director General  
National Agro-Forestry-Fisheries Quality Assurance Department  
Ministry of Agriculture and Rural Development  
The Socialist Republic of Viet Nam

## **Attached Document**

### **1. PROJECT DESIGN MATRIX**

The Project Design Matrix (hereinafter referred to as "PDM") was elaborated through discussion by JICA and the Vietnamese authorities concerned. Both sides agreed to recognize PDM as the implementation tool for project management, and the basis of monitoring and evaluation of the Project. The PDM will be utilized by both sides throughout the implementation of the Project. The PDM is shown in Annex I.

The PDM is subject to change within the framework of the Record of Discussions when necessity arises in the course of implementation of the Project by mutual consent.

### **2. PLAN OF OPERATIONS**

The Plan of Operations (hereinafter referred to as "PO") has been formulated according to the Record of Discussions, on condition that the necessary budget will be allocated for the implementation of the Project by both sides. The PO consists of a timetable and planned input of the Project. The schedule is subject to change within the scope of the Record of Discussions when necessity arises in the course of implementation of the Project. The PO is shown in Annex II.

### **3. MEASURES TO BE TAKEN FOR THE SMOOTH IMPLEMENTATION OF THE PROJECT**

- (1) For the smooth implementation of the Project, both Vietnamese and Japanese side will elaborate to create common recognition and understanding at any occasions with mutual respect. The Director General of National Agro-Forestry-Fisheries Quality Assurance Department (hereinafter referred to as "NAFIQAD") will be responsible for assuring that Vietnamese Counterparts fully understand the content of agreement.
- (2) Regarding the usage of the budget borne by JICA, Vietnamese side will strictly follow the regulation of JICA. Allowances for the staff of the counterpart organization will be strictly managed.
- (3) Both the Vietnamese and Japanese side will elaborate to follow the designated timeline for the smooth implementation of the Project.
- (4) The Vietnamese authorities shall allocate necessary human resources and budget for the effective implementation of the Project.

### **4. THE IMPLEMENTATION STRUCTURE OF THE PROJECT**

- (1) Both the Vietnamese and Japanese side has confirmed the implementation structure of the Project as attached in Annex III.



## **5. OTHER RELEVANT ISSUES FOR IMPLEMENTATION OF THE PROJECT**

- (1) The Project is inline with the framework of SPS. However the Project focuses on the capacity building for human resources on food safety. Therefore the establishment of SPS center shall be initiated by the Government of Socialist Republic Vietnam.
- (2) The Project aims to establish continuous inspection system for ensuring safety of agro-fishery food. The basic concept of Food Hygiene Monitoring Program for Agro-Fishery Food which focuses on this Project is shown in Annex IV.

## **6. OTHERS**

- (1) Payment criteria for the Project activities are to be developed in accordance with relevant regulations of the Government of Socialist Republic Vietnam and JICA.
- (2) The documents submitted to the Japanese experts should accompany English translation.

Annex I: PDM

Annex II: PO

Annex III: Implementation Structure of the Project

Annex IV: Concept of Food Hygiene Monitoring Program for Agro-Fishery Foods

ANNEX I

**Project Design Matrix (PDM)**  
 The Project for Strengthening Capacity of Inspection System for Ensuring Safety of Agro-Fishery Foods  
 Target Country: Socialist Republic of Vietnam  
 Target Group: NAFIQAD, SPS Office, PPD, DAH of MARD

Cooperation Period: 8 years  
 Pilot sites: NAFIQAD Branch 4, 6 and jurisdictional area  
 Version I Date: August 31, 2011

Narrative Summary	Objectively Verifiable Indicators	Means of Verification	Important Assumptions
<p><b>Overall Goal</b>                      Contribute to improve food safety of agro-fishery foods by the enhanced National Monitoring Program.</p>	<p>* National Monitoring Program for food safety of agro-fishery foods revised annually based on the result of previous year's program.</p>	<p>* Implementing plan and report by relevant organizations in NAFIQAD/MARD</p>	<p>* Budgetary measures to introduce the national monitoring testing are secured.</p>
<p><b>Project Purpose</b>                      The continuous inspection system for ensuring safety of agro-fishery foods is enhanced in NAFIQAD.</p>	<p>* Relevant Divisions and Centers of NAFIQAD which implement the National Monitoring Program are stipulated.                      * Revised National Monitoring Program is conducted and the next year's implementing plan is formulated according to the prioritized component which derived from the results of evaluation.</p>	<p>* Organization chart of NAFIQAD                      * The plan of National Monitoring Program</p>	<p>* Within MARD, relevant laboratories and stakeholders perform their own role properly.</p>
<p><b>Outputs</b>                      1. A testing capability of agro-fishery foods in NAFIQAD laboratories is strengthened.</p>	<p>1-1 Agro-foods as well as fishery food are tested in the selected pilot sites.                      1-2 Number of test substances are increased to XXXX in the pilot sites.                      * Based on the current situation and market required, the target of number of test substances will be mutually determined at the early time of the Project implementation.                      1-3 Accredited various Standard Operational Procedures (SOPs) are formulated in NAFIQAD Branch 4, 6.                      2-1 Database is set up for risk evaluation.</p>	<p>* Reports of short term expert                      * Standard Operational Procedures (SOPs) for testing                      * Reports of short term expert                      * Standard Operational Procedures (SOPs) for testing                      * Standard Operational Procedures (SOPs) for testing                      * NAFIQAD reports (including National Monitoring Program, Database)                      * Standard Operational Procedures (SOPs) for testing                      * A publication forms of annual plan                      * Reports of short term experts</p>	<p>* The Government policy of ensuring food safety remain unchanged.                      * No serious health hazards will not occur.</p>
<p>2. The National Monitoring Program for food safety of agro-fishery foods is improved.</p>	<p>2-2 A publication forms of annual plan and result of the National Monitoring Program are stipulated.                      3-1 At least 50 % of officers who received management training engage in management and improvement of the National Monitoring Program.</p>	<p>* Organization chart of MARD                      * National Monitoring Program                      * Questionnaire &amp; interview records of ex-participants at the time on Project Final evaluation                      * Echo-training Reports by C/P                      * Questionnaire &amp; interview records of ex-participants at the time on Project Final evaluation</p>	<p></p>
<p>3. Capacity of Government officers engaged in safety of agro-fishery foods are developed.</p>	<p>3-2 At least one personnel within C/Ps who received OJT become a trainer in each training subject, and conduct an echo-training.</p>	<p></p>	<p></p>

Activities	Inputs		Personnel being trained by the Project continue to work at their organizations, and also intend to transfer acquired knowledge to other related persons.
<p>1-1 To conduct technical training (ex. Sampling, Testing, GLP) in Japan for officers in target group.</p> <p>1-2 To conduct training in NAFIQAD Branch 4 and 6 with advanced analytical methodologies.</p> <p>1-3 To conduct Good Laboratory Practice (GLP) training for officers of NAFIQAD based on Japanese experiences.</p> <p>1-4 To establish and/or revise Standard Operational Procedures (SOPs) for standardization of the analytical methods.</p> <p>2-1 To conduct management training for C/Ps in Japan.</p> <p>2-2 To select and categorize monitoring parameters and also organizational structure based on the results on the above training.</p> <p>2-3 To conduct a trial of the monitoring program for agro-fishery foods at pilot sites and to formulate an evaluation method of the database, based on the Activity 2-2.</p> <p>2-4 To formulate an assessment method of the database which are accumulated through the trial.</p> <p>3-1 To conduct OJT in pilot sites for C/Ps who participated training in Japan.</p> <p>3-2 To conduct an echo-training for technical experts in targeted laboratories through C/Ps who acquired advanced technology by OJT.</p>	<p>&lt;Japanese side&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>1. Human resource</li> <li>Dispatch of Long term expert</li> <li>Chief Advisor/Food Safety Policy (1)</li> <li>Coordinator/Training Planning (1)</li> <li>Dispatch of Short term expert</li> <li>Pesticide residues</li> <li>Veterinary drug residues</li> <li>Heavy Metals</li> <li>Admetoxin</li> <li>Microorganisms</li> <li>GLP</li> <li>Sampling</li> <li>Planning of Monitoring Program</li> <li>Others (as required)</li> </ul> <p>2. Provision of Equipment</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>LC/MS/MS</li> <li>GC/MS/MS</li> <li>ICP-MS or ICP-OES</li> <li>Others which are indispensable for strengthening of test system</li> </ul> <p>3. C/P Training</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>Food administration/Planning of monitoring program</li> <li>Pesticide residues</li> <li>Veterinary drug residues</li> <li>Others</li> </ul> <p>4. Local cost</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>Expenses for workshop, meeting, etc.</li> </ul>	<p>&lt;Vietnamese side&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>1. Human resource</li> <li>Assignment of C/P Personnel</li> <li>Project Director</li> <li>Project Vice Director</li> <li>C/Ps in SPS Office, NAFIQAD HQ, NAFIQAD Branch 4 and 6, PPD, DAH</li> </ul> <p>2. Provision of Office Space and Training space</p> <p>3. Equipment</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>Using existent equipment</li> <li>Reagents for testing and consumables</li> <li>Regular check with calibration by supplier &amp; relevant authorities</li> </ul> <p>4. Allocation of C/P Budget</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>Expenses for training in Vietnam for NAFIQAD Branch 4 and 6</li> <li>Maintenance for equipment</li> </ul>	<p>Pre-conditions</p> <p>In order to start the Project, stable structure and human resources of related agencies are secured.</p>

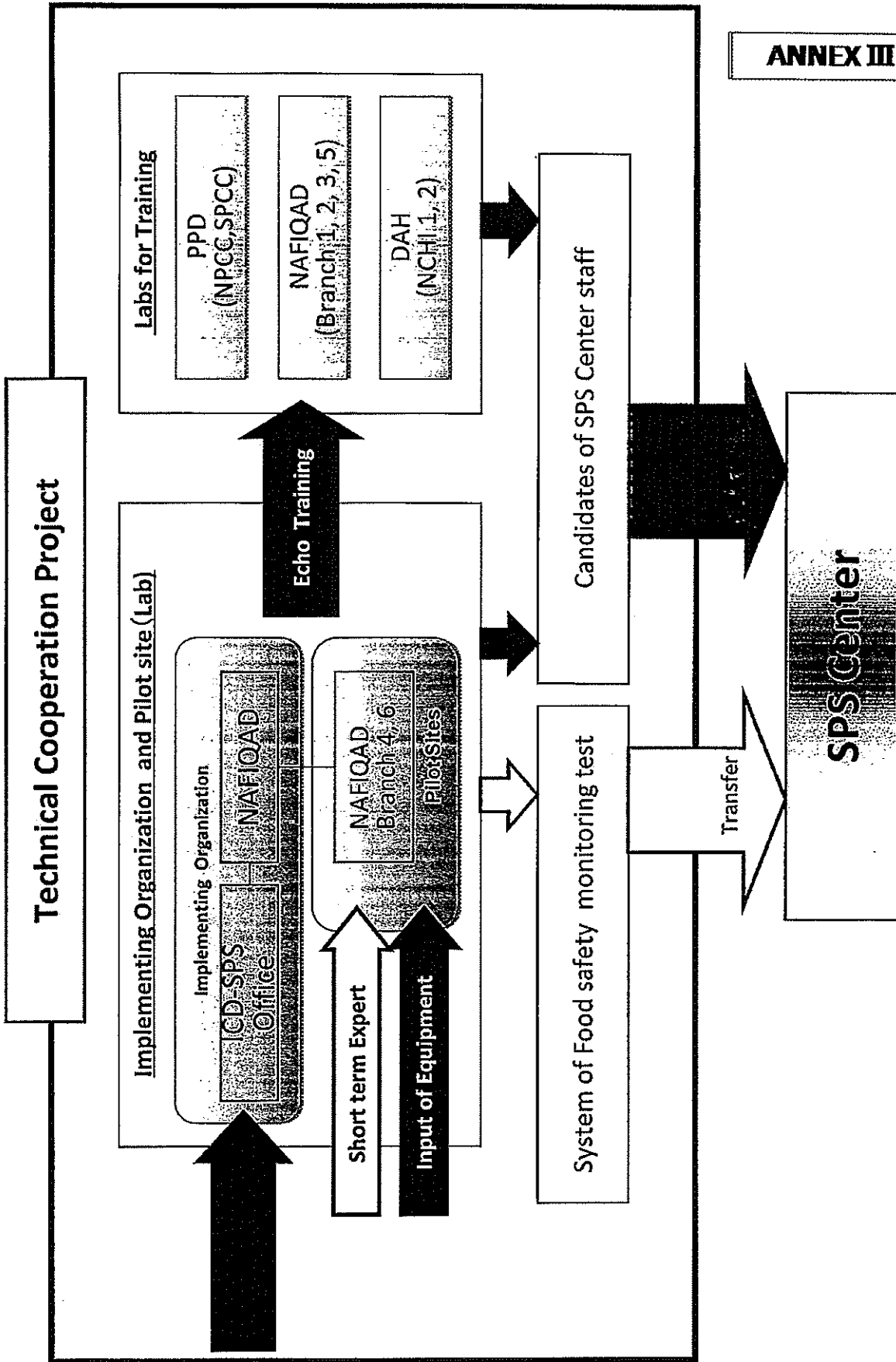


<p>Output 3 Capacity of Government officers engaged in safety of agro-fishery foods are developed.</p>	<p>Activity 3-1 To conduct OJT in pilot sites for C/Ps who participated training in Japan.</p>	<p>* Upgrading practical skills through OJT instructed by S-Experts.</p>	<p>*ICD: SFS Office, NAFI/QAD HQ</p>	<p>C/Ps</p>	<p>C/P Training/ S-Experts</p>
<p>Activity 3-2 To conduct an echo-training for technical experts in targeted laboratories through C/Ps who acquired advanced technology by OJT.</p>	<p>* At least 1 personnel within C/Ps who received OJT become a trainer in each training subject, and conduct an echo-training.</p>	<p>* Through the workshop/seminar, the participants from relevant governmental organizations gain understanding on food safety.</p>	<p>*ICD: SFS Office, NAFI/QAD HQ</p>	<p>C/Ps Echo training, Training Space</p>	<p>S, L-Experts</p>
<p>Other Activity To conduct workshop and seminar in order to improve technical skills to ensure food safety.</p>				<p>C/Ps</p>	<p>S, L-Experts</p>

ST



# Implementation Structure of the Project



ANNEX III

*Handwritten mark*

# Concept of Food Hygiene Monitoring Program for Agro-Fishery Foods

